令和３年（2021）

JAてんどう病害虫防除暦

安全・安心な天童の農産物を消費者へ届けるために

○農薬の使用基準を守り適正な防除に努めましょう。
○農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。農薬の使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
○生産工程管理表を正確に必ず記入しましょう。
○農薬散布時の飛散には十分注意し、住民及び環境に対する安全に努めましょう。

水100ℓ当たり農薬希釈早見表

倍率	30倍	50	100	200	250	300	350	400	450	500	600	700	750
薬剤量 g・mℓ	3,333	2,000	1,000	500	400	333	285	250	222	200	166	142	133

倍率	800倍	1,000	1,200	1,500	2,000	2,500	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000	10,000
薬剤量 g・mℓ	125	100	83	66	50	40	33	25	20	16	14	12	10

希釈農薬量算出式（水和剤・水溶液・フロアブル・乳剤・液剤）

散布量（水：リットル）÷ 希釈倍数 × 1,000 ＝ 必要農薬量（g・ml）

ＪＡてんどう
ＪＡ全農山形
天童市農協農畜産物安全安心推進本部

ＪＡてんどう情報サービス
http://www.jatendo.or.jp/

令和３年　水稲病害虫防除基準

JAてんどう

２０２０年１１月１日現在

種　子　消　毒

※　種子更新は、毎年必ず行う。

対象病害虫	使用薬剤	使用方法	注意事項	月日	防除実績（メモ）
いもち病・ばか苗病 苗立枯細菌病 ごま葉枯病・褐条病 もみ枯細菌病 苗立枯病（リゾープス菌・トリコデルマ菌）	テクリードCフロアブル （浸種前：１回）	浸　漬　処　理 塩水選を行ない、水洗いした種もみの水を切り、２００倍液（水２０㍑に対してテクリードCフロアブル現物１００ｍｌ）に２４時間浸漬する。	（１）薬液の使用量 乾燥種もみ：１０ｋｇ／水：２０㍑／テクリードCフロアブル：１００ｍｌ （２）使用後の薬剤は水路や池にすてない。 （３）薬液の温度は極端な低水温を避けること。	／	

育　苗　期

※　生もみがら、わらなどは、ばか苗病、いもち病の伝染源になるので育苗資材には使用しない。
※　育苗箱施用剤を使用した場合は、同一場所の後作で野菜等を栽培しない。

時期	対象病害虫	使用薬剤 省力体系	使用薬剤 一般体系	使用方法	注意事項	月日	防除実績（メモ）
は種前 （土壌混和）	苗立枯病 （ピシウム菌） （フザリウム菌）	—	タチガレエースM粉剤 （は種前：１回）	粉剤は１箱当たり８ｇ使用し、育苗箱土壌に均一に混和する。	（１）適正酸度（ＰＨ4.5～5.5）の土壌を使用する。 （２）人工培土を使用する場合でも混和する。	／	
は種時	苗立枯病 （ピシウム菌） （フザリウム菌） （リゾープス菌） ムレ苗防止	ナエファインフロアブル （は種時：２回以内）	—	は種時に、灌水をかねて、１箱当たり1,000倍の場合は５００ｍｌ、2,000倍の場合は１㍑を灌注する。	（１）リゾープス菌・細菌性病害の発生を防ぐため、出芽の土温は３０℃以上にしない。 （２）液温を２０℃前後で使用する。（白化現象を防ぐため） （３）ムレ苗防止に使用する場合、ピシウム菌に有効。	／	
発芽後	苗立枯病 （リゾープス菌）	—	ダコニール１０００ （は種時～は種１４日後：２回以内）	５００倍（２０ｍｌ／１０㍑）液を１箱当たり５００ｍｌ灌注する。		／	
育苗期	苗立枯病 （フザリウム菌） （ピシウム菌） ムレ苗防止	—	タチガレン液剤 （は種時及び発芽後：２回以内）	は種７～１０日後から平均気温が１０℃以下の日が２～３日続いた時はタチガレン液剤５００倍（２０ｍｌ／１０㍑）液を１箱当たり５００ｍｌ灌注して予防する。	（１）は種時までにタチガレエースM粉剤を使用しない場合は、タチガレン液剤の代わりにタチガレエースM液剤５００倍液を1箱当たり５００ｍｌ灌注しても良い。（使用回数１回）	／	

育苗箱施用剤

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使用時期 使用回数	使用方法	注意事項	月日	防除実績（メモ）
移植時	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ ヒメトビウンカ フタオビコヤガ イナゴ類	ブイゲットパディート粒剤	移植3日前～移植当日 1回	移植3日前～移植当日に１箱当たり**５０ｇ**を育苗箱の上から均一に散布する。	薬害が出る恐れがあるので次の事項に注意する。 （１）軟弱徒長苗には使用しない。 （２）本田が砂質土壌及び漏水の甚だしい所では使用しない。 （３）茎葉に付着した薬剤は払い落とし、軽く散水する。 （４）移植後は、すみやかに湛水する。 （５）本剤を使用した苗は予備苗としない。 **※　箱処理剤を使用した場合は、同一場所の後作で野菜等を栽培しない。**	／	

カメムシ対策	耕種的防除	①　カメムシの発生密度を下げるため、常日頃から畦畔・農道などの草刈り及び水田内の除草を徹底する。 ②　出穂間近の草刈りはカメムシを水田に侵入させるので、草刈りは７月２０日頃までに行ない、その後、８月下旬（８月２５日頃）まで草刈りは行わない。	／	
	特別防除	カメムシの発生が多い所では、７月上中旬にトレボン乳剤　2,000倍（収穫１４日前まで３回以内）を畦畔を含む水田周辺部に９０リットル／１０ａ額縁散布する。	／	

無人ヘリによる防除体系

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使用時期 使用回数	使用方法	注意事項	月日	防除実績（メモ）
穂揃期 （8/7～8/12頃）	いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	トップジンスタークルフロアブル	収穫１４日前まで 3回以内	４倍液を１０a当たり８００ｍｌ無人ヘリで散布する。	（１）穂いもち病防除の重要な時期なので防除を徹底する。 （２）カメムシ類の重要な防除時期なので、畦畔を含めて防除する。	／	
穂揃期 7～10日後 （8/15～8/20頃）	カメムシ類 ウンカ類	スタークル液剤１０	収穫 7日前まで 3回以内	８倍液を１０a当たり８００ｍｌ無人ヘリで散布する。	（１）カメムシ類の重要な防除時期なので、畦畔を含めて防除する。	／	

個人防除体系

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使用時期 使用回数	使用方法	注意事項	月日	防除実績（メモ）
7月下旬 （7月25日頃）	いもち病	コラトップ粒剤５	出穂３０日前～５日前まで ２回以内	湛水して１０ａ当たり３ｋｇそれぞれ散布する。	（１）散布時は湛水（水深３㎝以上）にし、散布後７日間は落水、かけ流しはしない。 （２）紋枯病が心配される所では、コラトップリンバー粒剤（いもち病+紋枯病）３ｋｇ/１０ａを使用する。（出穂３０日前～５日前まで２回以内）	／	
	カメムシ類	キラップ粒剤	収穫１４日前まで ２回以内				
穂揃期	ウンカ類 カメムシ類 ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ	スタークル粒剤	収穫 ７日前まで ３回以内	湛水して１０ａ当たり３ｋｇ散布する。	（１）散布時は湛水（水深３㎝以上）にし、散布後７日間は落水、かけ流しはしない。	／	

水稲倒伏軽減剤

薬剤名	使用時期	使用量（１０ａ当たり）	使用回数	注意事項	月日	防除実績（メモ）
スマレクト粒剤	出穂７～２０日前	２ｋｇ	１回	（１）散布時は湛水状態で使用する。 （２）重複散布や多量散布にならないようにする。 （３）散布後、７日間は落水やかけ流しをしない。	／	

除草剤の使用基準

※　除草剤散布後7日間は落水しない。
※　除草剤の散布にあたっては、畦畔等からの漏水を防止することにより、効果のアップを図る。
※　移植後好天が続くと、藻類・浮草・表層はく離が多発するので、除草剤は使用適期内の早い時期に散布する。
※　藻類・浮草・表層はく離が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので注意する。

◎効果高い　　○効果ある　　△やや劣る

田植え作業

体系処理（初期＋中期）

藻類対策

※　いずれか一剤使用する。

初期薬剤名	抵抗性ホタルイ	抵抗性アゼナ	使用時期	使用量（１０ａ当たり）	月日
ピラクロン１キロ粒剤	○	◎	移植時または移植直後～ノビエ1.5葉期まで	１ｋｇ	／
クラールＥＷ	○	◎	移植後１日～ノビエ1.5葉期まで	500ｍｌ	
エリジャンジャンボ	○	◎	移植直後～ノビエ１葉期まで	１０個（300ｇ）	
農将軍フロアブル	○	◎	移植時または移植直後～ノビエ1葉期まで	３００ｍｌ	

体系処理

※　いずれか一剤使用する。

中期薬剤名・使用時期・使用量	抵抗性ホタルイ	抵抗性アゼナ	月日
イッソウ１キロ粒剤 移植後７日～ノビエ４．５葉期 使用量　１ｋｇ（１０a当たり）	◎	◎	／
レブラス１キロ粒剤 移植後１４日～ノビエ４葉期 使用量　１ｋｇ（１０a当たり）	◎	◎	
ワイドショット１キロ粒剤 移植後１５日～ノビエ４葉期 使用量　１ｋｇ（１０a当たり）	◎	◎	
マメットSM１キロ粒剤 移植後１５日（イネ５葉期以降）～ノビエ３．５葉期 使用量　１ｋｇ（１０a当たり）	○	◎	

一発処理剤

※　いずれか一剤使用する。

薬剤名	抵抗性ホタルイ	抵抗性アゼナ	ノビエへの使用時期	使用量（１０ａ当たり）	使用時期	注意事項	月日
（１）粒剤							
シグナス１キロ粒剤	◎	◎	３葉期まで	１ｋｇ	移植時または移植直後～15日	（１）過剰散布にならないよう事前に散布機の吐出量を確認する。 （２）散布時期が遅れると効果が劣る恐れがあるので、適期内に散布する。 （３）散布後７日間は止水とし、田面を露出させない。 （４）移植時に使用する場合は、田植同時散布機で施用する。	／
アッパレＺ１キロ粒剤	◎	◎	３葉期まで				
エンペラー１キロ粒剤	◎	◎	３葉期まで				
バッチリLX１キロ粒剤	◎	◎	２．５葉期まで				

※　いずれか一剤使用する。

薬剤名	抵抗性ホタルイ	抵抗性アゼナ	ノビエへの使用時期	使用量（１０ａ当たり）	使用時期	注意事項	月日
（２）フロアブル剤							
シグナスフロアブル	◎	◎	３葉期まで	500ｍｌ	移植１日後～１５日	（１）散布前にボトルを軽く振って撹拌する。 （２）散布は、水の出入りを止め湛水状態で原液のまま田面に散布する。 （３）散布後７日間は止水とし、田面を露出させない。 （４）砂質土壌・漏水の大きな水田では使用しない。 （５）**藻類や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので使用しない。** （６）**エンペラーフロアブル・バッチリLXフロアブルを移植時に使用する場合は、田植同時散布機で施用する。**	／
アッパレZフロアブル	◎	◎	３葉期まで		移植３日後～１５日		
エンペラーフロアブル	◎	◎	３葉期まで		移植時または移植直後～１５日		
バッチリLXフロアブル	◎	◎	２．５葉期まで		移植時または移植直後～１５日		

※　いずれか一剤使用する。

薬剤名	抵抗性ホタルイ	抵抗性アゼナ	ノビエへの使用時期	使用量（１０ａ当たり）	使用時期	注意事項	月日
（３）投げ込み剤							
シグナスジャンボ	◎	◎	３葉期まで	１０個（３００ｇ）	移植１日後～１５日	（１）散布は、水の出入りを止め、水深５～６ｃｍに湛水して投げ込む。 （２）散布後７日間は止水とし、田面を露出させない。 （３）**藻類や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので使用しない。**	／
アッパレZジャンボ	◎	◎	３葉期まで	１０個（４００ｇ）	移植３日後～１５日		
エンペラージャンボ	◎	◎	３葉期まで	１０個（２５０ｇ）	移植直後～１５日		
バッチリLXジャンボ	◎	◎	２．５葉期まで	１０個（４００ｇ）			
エンペラー豆つぶ２５０	◎	◎	３葉期まで	２５０ｇ			

残草対策

オモダカ対策

薬剤名	対象雑草	ノビエへの使用時期	使用量（１０ａ当たり）	使用時期	注意事項	月日
バサグラン粒剤（ナトリウム塩）	広葉雑草のみ	－	３～４kg	移植後15～55日 収穫６０日前まで	（１）落水散布またはごく浅く湛水して散布する。 （２）散布後3日間は入水しない。 （３）雨天が予想される場合は散布しない。	／
アトトリ１キロ粒剤	ノビエ・多年生広葉雑草	４葉期まで	１ｋｇ	移植後１４日（イネ５葉期以降）～収穫４５日前まで	（１）湛水状態（水深3～5cm）にし、水の出入りを止めてから散布する。 （２）散布後７日間は落水、かけ流しはしない。	
トドメMF１キロ粒剤	ノビエ	５葉期まで	１ｋｇ	移植後１４日～収穫５０日前まで	（１）湛水状態（水深3～5cm）にし、水の出入りを止めてから散布する。 （２）散布後７日間は落水、かけ流しはしない。	
ワイドパワー粒剤	ノビエ・広葉雑草	５葉期まで	３ｋｇ	移植後20日～収穫６０日前まで	（１）散布する時は、落水して土壌が十分湿っている状態で散布し、３日間は入水しない。	
クリンチャーバスME液剤	ノビエ・広葉雑草	５葉期まで	１㍑（希釈水量70～100㍑）	移植後15日～収穫５０日前まで	（１）散布前に落水して使用する。散布後３日間は入水しない。 （２）雨天が予想される場合は散布しない。	
バサグラン液剤（ナトリウム塩）	広葉雑草のみ	－	500～700ｍｌ（希釈水量70～100㍑）	移植後15～55日 収穫５０日前まで		

クサネム・イボクサ対策

薬剤名	対象雑草	使用量（１０ａ当たり）	使用時期	注意事項	月日
ノミニー液剤	クサネム・イボクサ	50～100ｍｌ（希釈水量　100㍑）	移植後30日 収穫60日前まで クサネムの草丈40㎝まで イボクサの茎長30㎝まで	（１）落水散布又はごく浅く湛水して散布。 （２）出穂・籾の品質に影響するおそれがあるので、幼穂形成期以降は使用しない。	／

刈取後の残草対策

薬剤名	対象雑草	使用量（１０ａ当たり）	使用時期	注意事項	月日
クロレートＳ	一年生雑草及び多年生イネ科雑草	２０～２５ｋｇ	水稲刈取後（秋期雑草生育期）	（１）雑草の発生が多かった圃場では、秋耕耘せずに刈取後なるべく早く使用する。	／
	オモダカ	３０～４０ｋｇ			

大豆病害虫防除基準

			適正使用基準	月日
種子消毒（紫斑病・タネバエ）		ハト対策と合わせて、キヒゲンを乾燥種子重量の１％種子粉衣する。	は種前 １ 回	／
タネバエ		カルホス微粒剤Fを6kg/１０ａ散布し、土とよく混和する。	は種時 ２ 回以内	／
マメシンクイガ及び紫斑病	１回目(8/25頃) ２回目(９/５頃)	マメシンクイガはスミチオン乳剤1,000倍（収穫２１日前まで　４回以内） 紫斑病はトップジンM水和剤1,000倍（収穫１４日前まで　４回以内）を混用し散布する。散布液量　１００～３００㍑／１０a	収穫２１日前まで４回以内 ※スミチオン乳剤は、アブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、ダイコンなど)に薬害がでるので注意する。	／

大豆、飼料用とうもろこしの除草剤

作物	除草剤名	使用量（10a当たり）	散布時期および使用方法	注意事項	月日
大豆	エコトップP乳剤	５００ｍｌ（希釈水量 １００㍑）	は種後出芽前（雑草発生前）１回 全面土壌散布	（１）畑地１年生雑草に効果を示す。 （２）生育期の作物に付着すると、葉先が黄化する。 （３）砂土では使用しない。	／
飼料用とうもろこし	エコトップP乳剤				
	ゲザノンゴールド	２００ｍｌ（希釈水量 １００㍑）	・マルチ前・は種前（雑草発生前） ・は種後発芽前（雑草発生前） ・生育期（とうもろこし2～4葉期） 上記のうちいずれか１回 全面土壌散布	（１）展着剤は加用しない。 （２）薬害が生ずる恐れがあるので砕土、整地及び覆土は丁寧に行う。 （３）極端な湿土壌及び砂質土壌で使用する場合には、生育を抑えることがあるので少なめに薬量を散布する。 （４）砂土では使用しない。	

ねぎの防除薬剤

【 害虫防除 】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある害虫								IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	アザミウマ類	シロイチモジヨトウ	ネギハモグリバエ	タマネギバエ	ネギコガ	ネキリムシ類	ネダニ類	アブラムシ類			倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
育苗期後半～定植当日	ネギ		○	○		○			28+4A	ジュリボフロアブル	200倍	育苗期後半～定植当日	1回	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）あたり500ｍｌを灌注	／				
定植時	ネギ		○						4A	ベストガード粒剤	6kg	定植時	1回	植溝処理土壌混和	／				
生育期	○	※	○		○			○	3A	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫7日前	5回以内	※1,000倍でシロイチモジヨトウの適用あり	／	／	／	／	／
							○		16	アプロードフロアブル	1,000倍	収穫14日前	1回	株元灌注	／				
						○			3A	ガードベイトA	3kg	生育初期	3回以内	株元散布	／	／	／		
	○	○	○		○				30	グレーシア乳剤	2000倍	収穫7日前	2回以内		／	／			
		○	○		○				13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫7日前	2回以内		／	／			
	○		○	※	○			○	1B	ダイアジノン乳剤40	1,000倍	収穫21日前	2回以内	※タマネギバエの場合は700倍で使用	／	／			
	ネギ		○						4A	ダントツ粒剤	3～6kg	収穫3日前	4回以内	株元散布	／	／	／	／	
	○	○	○		○				5	ディアナSC	2,500倍	収穫前日まで	2回以内		／	／			
	○	○			○			○	21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫7日前	2回以内	さび病、べと病にも適用あり	／	／			
	○		○							ファインセーブフロアブル	2000倍	収穫3日前	2回以内		／	／			
	ネギ	○							UN	プレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前	4回以内		／	／	／	／	
	○								4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前	3回以内		／	／	／		

●ネギはネギアザミウマ

【 病害防除 】

作業	適用のある病害								FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	軟腐病	葉枯病	べと病	さび病	黒斑病	小菌核腐敗病		白絹病			倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
生育期		○	○	○	○				11	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前	4回以内	単剤使用　混用・展着剤不可	／	／	／	／	
		○	○	○	○				11	メジャーフロアブル	2,000倍	収穫前日	3回以内		／	／	／		
				○	○				3	オンリーワンフロアブル	1,000倍	収穫14日前	3回以内		／	／	／		
	○								24+M1	カスミンボルドー	1,000倍	収穫14日前	※2回以内	※カスミンボルドー、カセット水和剤の総使用回数は2回以内。	／	／			
	○								31+24	カセット水和剤	1,000倍	収穫14日前	※2回以内	※カセット水和剤、スターナ水和剤の総使用回数は3回以内。	／	／			
	○								31	スターナ水和剤	2,000倍	収穫7日前	※3回以内		／	／	／		
				○					3	サプロール乳剤	1,000倍	収穫前日	5回以内		／	／	／	／	／
			○	○	○				M3	ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫14日前	※3回以内	※ジマンダイセン水和剤、テーク水和剤、リドミルゴールドＭＺの総使用回数は３回以内。	／	／	／		
		○	○	○	○				3+M3	テーク水和剤	600倍	収穫14日前	※3回以内		／	／	／		
			○						4+M3	リドミルゴールドＭＺ	1,000倍	収穫30日前	※3回以内		／	／	／		
				○	○				11	ストロビーフロアブル	2,000倍	収穫7日前	3回以内		／	／	／		
		○	○	○	○	○			M5	ダコニール１０００	1,000倍	収穫14日前	3回以内		／	／	／		
								○	7	モンカット粒剤	4～6kg	土寄せ時、収穫30日前	3回以内	土寄せ時に株元散布する	／	／	／		
		○		○	○	○			7	パレード20フロアブル	2,000倍	収穫前日	3回以内		／	／	／		
				○					3	ラリー水和剤	2,000倍	収穫7日前	3回以内		／	／	／		
			○						21	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前	4回以内		／	／	／	／	
			○						40	レーバスフロアブル	2,000倍	収穫7日前	2回以内		／	／			
					○	○		※	2	ロブラール水和剤	1,000倍	収穫14日前	3回以内	※白絹病の場合は500～1000倍、１㎡当り1リットル株元灌注	／	／	／		

●展着剤は、水和剤、フロアブルに加用する。

ほうれんそうの防除薬剤

【 害虫防除 】

作業	適用のある害虫						IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	アブラムシ類	アシグロハモグリバエ	ホウレンソウケナガコナダニ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	ネキリムシ類			倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
播種前			○			○	3A	フォース粒剤	9kg	播種前	1回	全面土壌混和	／				
生育期	○			○			3A	アグロスリン乳剤	2,000倍	21日前まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける	／	／	／	／	／
	○						4A	アドマイヤーフロアブル	4,000倍	前日まで	2回以内	アザミウマ類にも適用あり	／	／			
			○		○		6	アファーム乳剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		／	／			
		○	○		○		15	カスケード乳剤	4,000倍	3日前まで	3回以内	脱皮阻害剤なので遅効性	／	／	／		
	○						1B	マラソン乳剤	2,000倍	14日前まで	4回以内		／	／	／	／	

【 病害防除 】

作業	適用のある病害	FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
				倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
播種前	べと病	4+11	ユニフォーム粒剤	9kg	播種前	1回	全面土壌混和	／				
生育期	べと病・白斑病	P7	アリエッティ水和剤	1,500倍	前日まで	2回以内		／	／			
	べと病	U17	ピシロックフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内	耐雨性○　予防的に散布する	／	／			
	べと病	21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	耐雨性○　予防的に散布する	／	／	／		
	べと病	40	レーバスフロアブル	2,000倍	3日前まで	2回以内	耐雨性○	／	／			

こまつなの防除薬剤

【 病害虫防除 】

作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）		
					倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目
播種前又は定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	30kg	播種又は定植前	1回	全面土壌混和。つまみ菜、間引き菜には使用しない。	／		
			21	オラクル粉剤	20kg	播種前又は定植前	2回以内	全面土壌混和	／	／	
播種時	キスジノミハムシ、ネキリムシ類	1B		ダイアジノン粒剤5	6kg	播種時	1回	播種時では全面土壌混和 出芽時では土壌表面散布（ネキリムシ類のみ適用）	／		
		3A		フォース粒剤	4kg	播種時	1回	全面土壌混和	／		
生育期	白さび病		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する	／	／	／
			11	アミスター20フロアブル	2,000倍	7日前まで	2回以内		／	／	
	アブラムシ類	4A		モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	7日前まで	1回	キスジノミハムシにも適用あり。	／		
		3A		アグロスリン乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／	
	コナガ	15		カスケード乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	アオムシ・マメハモグリバエにも適用あり。	／	／	
		6		アファーム乳剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		／	／	

トマトの防除薬剤

【 害虫防除 】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある害虫								IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	アブラムシ類	アザミウマ類	コナジラミ類	ﾄﾏﾄｻﾋﾞﾀﾞﾆ	ナミハダニ	オオタバコガ	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ			倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
育苗期後半	○	○	○	○					28	ベリマークＳＣ	400倍	育苗期後半	1回	株当たり２５ｍｌ灌注処理 浸透移行性あり、残効性あり	／				
定植時	○	○		○					4A	ベストガード粒剤	２ｇ／株	定植時	１回	植穴処理土壌混和	／				
生育期				ﾀﾊﾞｺ			○	○	15	アタブロン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	脱皮阻害作用があるので遅効性	／	／	／		
		○		ｵﾝｼﾂ					3A	アディオン乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	ピレスロイド剤特有の速効的ノックダウン効果を示す	／	／	／		
	○			○	○		○		6	アファーム乳剤	2,000倍	前日まで	5回以内		／	／	／	／	／
		○	ﾐｶﾝｷｲﾛ	○					29	ウララＤＦ	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない	／	／	／		
	トマト		○	○	○		○	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／			
			ﾐｶﾝｷｲﾛ		○	○	○		13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
				○					4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／			
	○	○		○					4A	ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
	○		○	○			○	○	5	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		／	／			
	○						○		28	プレバソンフロアブル５	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり	／	／	／		
	○						○	○	UN	プレオフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内		／	／			
		○	○	○					4A	ベストガード水溶剤	1,000倍	前日まで	3回以内	抵抗性害虫にもよく効く	／	／	／		
		○	○	○					4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
		○	○	○	○				23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅効性のため早めに使用する 浸透移行性あり、残効性あり	／	／	／		

※ミカンキイロは、ミカンキイロアザミウマ　※タバコは、タバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミを含む）　※オンシツは、オンシツコナジラミ　※トマトは、トマトハモグリバエ

【 病害防除 】

作業	適用のある病害								FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	疫病	苗立枯病	輪紋病	すすかび病	葉かび病	灰色かび病	菌核病	うどんこ病			倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
育苗期		○							M4	オーソサイド水和剤80	800倍	播種後から2～3葉期	5回以内	㎡あたり2Lをジョウロまたは噴霧器で灌注。	／	／	／	／	／
生育期				○	○	○	○	○	7	アフェットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	ペンチオピラドを含む剤（アフェットフロアブル、ベジセイバー）の総使用回数は3回以内。	／	／	／		
					○	○			11	アミスター２０フロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	高温時の散布で薬害のおそれあり。 浸透性展着剤のニーズは使用しない。	／	／	／	／	
					○	○	○		1+10	ゲッター水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	／	／	／	／	／
	○		○	○	○	○		○	M5	ダコニール１０００	1,000倍	前日まで	4回以内	ＴＰＮを含む剤（ダコニール1000、プロポーズ顆粒水和剤、ベジセイバー）の総使用回数は4回以内。	／	／	／	／	
	○				○				40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
	○				○			○	3+M3	テーク水和剤	800倍	前日まで	2回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	／	／			
				○	○				3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	／	／	／	／	／
						○			9	フルピカフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	高温時の散布で薬害のおそれあり。 予防的に散布する。	／	／	／	／	
	○			○	○	○		○	7+M5	ベジセイバー	1,000倍	前日まで	3回以内	ペンチオピラドを含む剤（アフェットフロアブル、ベジセイバー）の総使用回数は3回以内。ＴＰＮを含む剤（ダコニール１０００、プロポーズ顆粒水和剤、ベジセイバー）の総使用回数は4回以内。	／	／	／		
					○	○			M7	ベルクート水和剤	3,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	／	／	／		
	○								21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		／	／	／	／	
						○			2	ロブラール５００アクア	1,000倍	前日まで	3回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	／	／	／		

ミニトマトの防除薬剤

【 害虫防除 】

作業	適用のある害虫						IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	ﾄﾏﾄｻﾋﾞﾀﾞﾆ	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ			倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
育苗期後半	○	○	○	○			28	ベリマークＳＣ	400倍	育苗期後半	1回	株当たり２５ｍｌ灌注処理。 浸透移行性あり、残効性あり。	／				
定植時	○	○		○			4A	ベストガード粒剤	２ｇ／株	定植時	１回	植穴処理土壌混和。	／				
生育期			ﾐｶﾝｷｲﾛ			○	3A	アーデント水和剤	1,000倍	前日まで	2回以内		／	／			
				ﾀﾊﾞｺ		○	15	アタブロン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	／	／	／		
	○			○	○	○	6	アファーム乳剤	2,000倍	前日まで	5回以内		／	／	／	／	／
		○	ﾐｶﾝｷｲﾛ	○			29	ウララＤＦ	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	／	／	／		
	トマト		○	○	○	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／			
			ﾐｶﾝｷｲﾛ		○	○	13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	ナミハダニにも適用あり。	／	／	／		
				○			4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／			
	○	○		○			4A	ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
	○		○	○		○	5	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	／	／			
	○					○	28	プレバソンフロアブル５	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	／	／	／		
		○	○	○			4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
		○	○	○	○		23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅効性のため早めに使用する。 浸透移行性あり、残効性あり。	／	／	／		

※ミカンキイロは、ミカンキイロアザミウマ　※タバコは、タバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミを含む）　※トマトは、トマトハモグリバエ

【 病害防除 】

作業	適用のある病害						FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	疫病	輪紋病	葉かび病	灰色かび病	菌核病	うどんこ病			倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
生育期			○	○	○	○	7	アフェットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	／	／	／		
			○	○	○		1+10	ゲッター水和剤	1,500倍	前日まで	3回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	／	／	／		
	○	○	○	○		○	M5	ダコニール１０００	1,000倍	前日まで	2回以内	予防的に散布する。	／	／			
			○				3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。 すすかび病にも適用あり。	／	／	／	／	／
				○			9	フルピカフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	高温時の散布で薬害のおそれあり。	／	／	／	／	
			○	○			M7	ベルクート水和剤	6,000倍	前日まで	2回以内	予防的に散布する。 ペンコゼブフロアブルは、すすかび病にも適用あり。	／	／			
	○	○	○				M3	ペンコゼブフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内		／	／			
	○						21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		／	／	／	／	

とうもろこしの防除薬剤

【 害虫防除 】

作業	適用のある害虫					IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）			
	アブラムシ類	アワノメイガ	アワヨトウ	オオタバコガ	ネキリムシ類			倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目
生育期	○	※				3A	アディオン乳剤	3,000倍	１４日前まで	4回以内	※2,000倍でアワノメイガに適用あり。	／	／	／	／
	○					4A	アドマイヤーフロアブル	4,000倍	１４日前まで	2回以内		／	／		
		○				1A	デナポン粒剤５	4～6kg	２１日前まで	2回以内	雄穂抽出期～雌穂抽出期	／	／		
		○	○			3A	トレボン乳剤	1,000倍	７日前まで	4回以内		／	／	／	／
		○		○		28	フェニックス顆粒水和剤	4,000倍	前日まで	2回以内		／	／		
		○				28	プレバソンフロアブル５	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	／	／	／	

きゅうりの防除薬剤

【 害虫防除 】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある害虫					IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	アブラムシ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハダニ類	ウリノメイガ			倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
定植時	○	オンシツ	○			1B	ジェイエース粒剤	3～6kg（1～2g/株）	定植時	1回	定植時、作条散布又は植穴処理。	／				
	○	○	○			4A	スタークル粒剤	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	／				
生育期	○	オンシツ				3A	アディオン乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用をさける。	／	／	／		
		オンシツ幼虫				16	アプロード水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内	成虫を直接殺す作用がないので幼虫主体の時期に散布。	／	／	／		
	○	○				29	ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	／	／	／		
		○	○	○	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内	トマトハモグリバエにも適用あり。	／	／			
			ミカンキイロ	○	○	13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
		○		○		6	コロマイト乳剤	1,500倍	前日まで	2回以内	1,000倍でハモグリバエ類にも適用あり。	／	／			
	○	○	○			4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／			
			○		○	5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	前日まで	2回以内	ハモグリバエ類にも適用あり。	／	／			
					○	28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
	○	○	○		○	21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	前日まで	2回以内	うどんこ病・べと病・褐斑病にも適用あり。	／	／			
	○			○		1B	マラソン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	1,000倍でウリハムシに適用あり。	／	／	／		
	○	○	○		○	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
	○	○	○	○		23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅行性のため早めに使用する。	／	／	／		

※オンシツはオンシツコナジラミ　※ミカンキイロはミカンキイロアザミウマ

【 病害防除 】

作業	適用のある病害									FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	うどんこ病	べと病	斑点細菌病	褐斑病	炭そ病	灰色かび病	菌核病	つる枯病	黒星病			倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
生育期	○					○	○			7	アフェットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	／	／	／		
	○	○	○							24+M1	カスミンボルドー	1,000倍	前日まで	5回以内		／	／	／	／	／
	○					○				NC	カリグリーン	800倍	前日まで	—	展着剤を必ず加用する。	／	／	／	／	／
	○				○	○	○	○	○	1	トップジンM水和剤	2,000倍	前日まで	5回以内	チオファネートメチルを含む剤（トップジンM水和剤、ゲッター水和剤）の総使用回数は5回以内とする。	／	／	／	／	／
				○	○	○	○			1+10	ゲッター水和剤	1,500倍	前日まで	5回以内	ジエトフェンカルブを含む剤（ゲッター水和剤、スミブレンド水和剤）の総使用回数は5回以内とする。	／	／	／	／	／
				○		○	○			10+2	スミブレンド水和剤	1,500倍	前日まで	5回以内		／	／	／	／	／
	○	○		○	○	○			○	M5	ダコニール1000	1,000倍	前日まで	8回以内	TPNを含む剤（ダコニール1000、プロポーズ顆粒水和剤、ドーシャスフロアブル）の総使用回数は8回以内とする。	／	／	／	／	／
	○	○		○					○	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
	○	○		○	○				○	21+M5	ドーシャスフロアブル	1,000倍	前日まで	4回以内		／	／	／	／	
		○								21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	シアゾファミドを含む剤（ドーシャスフロアブル、ランマンフロアブル）の総使用回数は4回以内とする。	／	／	／	／	
	○								○	3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	／	／	／	／	／
	○			※	○	○				M7	ベルクート水和剤	4,000倍	前日まで	7回以内	※2,000倍で褐斑病に適用あり。	／	／	／	／	／
																／	／			
	○									M10	モレスタン水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内	予防、治療効果あり。コナジラミ類にも適用あり。	／	／	／		
	○									3	ラリー水和剤	5,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	／	／	／	／	／
						○	○	○		2	ロブラール500アクア	1,000倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	／	／	／	／	
		○								45+40	ザンプロDMフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		

なすの防除薬剤

【 害虫防除 】

作業	適用のある害虫										IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	アブラムシ類	ヨトウムシ	コナジラミ類	テントウムシダマシ類	ハダニ類	ハスモンヨトウ	オオタバコガ	ハモグリバエ類	ミカンキイロアザミウマ	チャノホコリダニ			倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
定植時	○		○					○	アザミウマ類		4A	スタークル粒剤	1g／株	定植時	1回	植穴土壌混和	／				
	○								アザミウマ類		4A	アドマイヤー1粒剤	1～2g／株	定植時	1回	植穴又は株元土壌混和。根に直接ふれないように注意。	／				
生育期	○		オンシツ	○							3A	アディオン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
	○		○						○		29	ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	／	／	／		
			○		○	○	○	トマト	アザミウマ類	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／			
		○		○	○	○	○		○	○	13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		／	／	／	／	
			○		○			○		○	6	コロマイト乳剤	1,500倍	前日まで	2回以内	水なすに使用しない。炎天下を避け夕方に散布する。	／	／			
					○					○	25A	スターマイトフロアブル	2,000倍	前日まで	1回		／				
	○		○	○				○	ミナミキイロ		4A	ダントツ水溶剤	4,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
			○			○	○	○	アザミウマ類		5	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		／	／			
						○	○				28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
						○	○	○	アザミウマ類		UN	プレオフロアブル	1,000倍	前日まで	4回以内		／	／	／	／	
	○		※	○					アザミウマ類		4A	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	前日まで	3回以内	※コナジラミ類には2,000倍で散布する。	／	／	／		
	○		○		○				アザミウマ類	○	23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		

●オンシツはオンシツコナジラミ　●ミナミキイロはミナミキイロアザミウマ　●トマトはトマトハモグリバエ

【 病害防除 】

作業	適用のある病害									FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	菌核病	すすかび病	半身萎凋病	うどんこ病	灰色かび病	黒枯病	褐色腐敗病	褐紋病				倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
生育期		○		○						11	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。浸透性を高める効果のある展着剤（ニーズ等）は使用しない。	／	／	／	／	
		○		○						3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	／	／	／	／	／
		○		○	○	○				M5	ダコニール1000	1,000倍	前日まで	※4回以内	※TPNを含む剤（ダコニール1000、ブリザード水和剤）の総使用回数は4回以内とする。	／	／	／	／	
		○		○						27+M5	ブリザード水和剤	1,500倍	前日まで	※3回以内		／	／	／		
		○		○	○					M7	ベルクート水和剤	3,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
	○				○	○		○		1	ベンレート水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
			○									500倍	定植後～14日前まで		1株当り200～300ml土壌潅注。					
							○			21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	／	／	／	／	
					○					2	ロブラール500アクア	1,500倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	／	／	／	／	

ばれいしょの防除暦

【 病害虫防除 】

月	作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
						倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
4月	植付前	ケラ、ネキリムシ類	1B		ダイアジノン粒剤5	4～6kg	植付前	1回	全面土壌混和又は作条土壌混和。	／				
	植付後から萌芽前	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）			トレファノサイド粒剤2.5	5kg	植付後～萌芽前	1回	全面土壌散布	／				
5月	生育期	疫病、夏疫病		M5	ダコニール1000	1,000倍	7日前まで	5回以内	予防的に散布する	／	／	／	／	／
		アブラムシ類	4A		アクタラ顆粒水溶剤	3,000倍	14日前まで	3回以内	2000倍でテントウムシダマシ類にも適用あり。	／	／	／		
6月		疫病、夏疫病、菌核病		29	フロンサイド水和剤	2,000倍	14日前まで	4回以内	予防的に散布する	／	／	／	／	
		アブラムシ類、オオニジュウヤホシテントウ	4A		アドマイヤー顆粒水和剤	15,000倍	14日前まで	2回以内		／	／			
		疫病		21	ランマンフロアブル	1,000倍	7日前まで	4回以内	予防的に散布する	／	／	／	／	

キャベツの防除暦

【 病害虫防除 】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

月	作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法 倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数	注意事項	使用実績（使用月日） 1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
展着剤					ハイテンパワー	5,000～10,000倍	–		使用する際は、注意事項をよく読んで御使用下さい。	／	／	／	／	／
8月	定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	20～30kg	播種又は定植前	2回以内	全面土壌混和	／	／			
				21	オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内		／	／			
	定植時	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	1B		ジェイエース粒剤	3～6kg（1～2g/株）	定植時	1回	定植時植穴処理。根に直接ふれないように。	／				
		ネキリムシ類	3A		フォース粒剤	4kg	定植時	1回	全面土壌混和	／				
		ナメクジ類、カタツムリ類	UN		スラゴ	5g/㎡	発生時	―	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置。	／	／	／	／	／
9月	生育期	コナガ、アオムシ、ウワバ類、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、アザミウマ類、ハイマダラノメイガ	30		グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内		／	／			
		べと病		M3	ジマンダイセン水和剤	400倍	30日前まで	3回以内		／	／	／		
		黒腐病、黒斑細菌病、軟腐病		31+24	カセット水和剤	1,000倍	7日前まで	3回以内		／	／	／		
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、アザミウマ類	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		／	／			
		ヨトウムシ、オオタバコガ、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アザミウマ類、ウワバ類	5		ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		／	／			
		ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ、ウワバ類、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ	UN		プレオフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内		／	／			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、アザミウマ類	21A		ハチハチ乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		／	／			
10月		べと病、根朽病		M5	ダコニール1000	1,000倍	14日前まで	2回以内	予防的に散布する	／	／			
		アオムシ、ウワバ類、オオタバコガ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	28		プレバソンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	／	／	／		
		オオタバコガ、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、タマナギンウワバ、ハスモンヨトウ、アブラムシ類	3A+1B		ハクサップ水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	／	／	／	／	／

はくさいの防除暦

【 病害虫防除 】

月	作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法 倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数	注意事項	使用実績（使用月日） 1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
8月	播種定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	20～30kg	播種又は	1回	全面土壌混和	／				
				21	オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内		／	／			
	定植時	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	1B		ジェイエース粒剤	3～6kg（1～2g/株）	定植時	1回	定植時植穴処理。根に直接ふれないように。	／				
		ネキリムシ類	3A		フォース粒剤	4kg	定植時	1回	全面土壌混和	／				
		ナメクジ類、カタツムリ類	UN		スラゴ	5g/㎡	発生時	―		／	／	／	／	／
9月	生育期	コナガ、アオムシ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、ハイマダラノメイガ、オオタバコガ、ネギアザミウマ	30		グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内		／	／			
		べと病、黒斑病、白斑病		M3	ジマンダイセン水和剤	600倍	30日前まで	1回		／				
		軟腐病、黒斑細菌病		31+24	カセット水和剤	1,000倍	21日前まで	2回以内	予防的に散布する	／	／			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		／	／			
		ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ	UN		プレオフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内		／	／			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ	21A		ハチハチ乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		／	／			
10月		べと病、黒斑病、白斑病、白さび病		M5	ダコニール1000	1,000倍	7日前まで	2回以内	予防的に散布する	／	／			
		べと病、ピシウム腐敗病		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	4回以内	予防的に散布する	／	／	／	／	
		アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	28		プレバソンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	／	／	／		
		アブラムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ、タマナギンウワバ、ハスモンヨトウ	3A+1B		ハクサップ水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	／	／	／	／	／

だいこんの防除暦

【 病害虫防除 】 （秋冬取り）

月	作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法 倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数	注意事項	使用実績（使用月日） 1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
8月	播種	ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウ	1B		ネマトリンエース粒剤	20kg	播種前	1回	全面土壌混和	／				
		キスジノミハムシ、アブラムシ類	4A		スタークル粒剤	6kg	播種時	1回	播溝土壌混和	／				
	生育期	ネキリムシ類	1A		デナポン5%ベイト	3～6kg	30日前まで	4回以内	株元散布	／	／	／	／	
		黒斑細菌病、軟腐病		31+24	カセット水和剤	1,000倍	14日前まで	3回以内		／	／	／		
9月		ナメクジ類、カタツムリ類	UN		スラゴ	5g/㎡	発生時	―	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置。	／	／	／	／	／
		アブラムシ類、キスジノミハムシ、アオムシ、コナガ、カブラハバチ	4A		モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	14日前まで	1回		／				
		アブラムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	3A+1B		ハクサップ水和剤	2,000倍	35日前まで	3回以内		／	／	／		
10月		白さび病、ワッカ症		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する	／	／	／		
		アオムシ、コナガ	5		スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	7日前まで	3回以内		／	／	／		
		アブラムシ類	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	アブラムシが多い場合	／	／			

せいさいの防除暦

【 病害虫防除 】

農薬検索（ 非結球アブラナ科葉菜類：高菜と同じ ）

月	作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法 倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数	注意事項	使用実績（使用月日） 1回目	2回目	3回目
9月	播種前定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	20～30kg	播種又は	1回	全面土壌混和	／		
				21	オラクル粉剤	20kg	定植前	2回以内		／	／	
	播種時	アブラムシ類、キスジノミハムシ	4A		スタークル粒剤	6kg	播種時	1回	播溝土壌混和	／		
		ネキリムシ類、キスジノミハムシ	3A		フォース粒剤	4kg	播種時	1回	全面土壌混和	／		
10月	生育期	白斑病		11	ストロビーフロアブル	3,000倍	7日前まで	2回以内	単用散布。予防的に散布する	／	／	
		アブラムシ類、コナジラミ類	4A		アドマイヤーフロアブル	4,000倍	14日前まで	2回以内		／	／	
		コナガ、アオムシ、ヨトウムシ	6		アファーム乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		／	／	／
11月		白さび病		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する	／	／	／
		アブラムシ類、キスジノミハムシ	4A		モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	7日前まで	1回		／		

えだまめの防除薬剤

【 病害虫防除 】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法 倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数	注意事項	使用実績（使用月日） 1回目	2回目	3回目
播種前	紫斑病		M3	キヒゲンR-２フロアブル	乾燥種子 1kgあたり ２０ml (原液塗沫処理)	播種前	１回	カラス・ハトは豆類(未成熟)で適用あり。**チウラム剤で処理された種子を用いる場合は、使用しない。**	／		
	カラス、ハト										
播種時	ネキリムシ類、タネバエ	1B		カルホス微粒剤F	６kg	播種時	１回	土壌表面散布、土壌混和処理	／		
	アブラムシ類	4A		アドマイヤー1粒剤	３kg	播種時	１回	播溝土壌混和	／		
生育期	べと病		11	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／
	べと病、茎疫病、斑点細菌病		40+M1	フェスティバルC水和剤	600倍	前日まで	３回以内		／	／	／
	菌核病、灰色かび病		2	ロブラール水和剤	1,000倍	30日前まで	３回以内	予防的に散布する。	／	／	／
	莢汚損症、紫斑病		1+10	ゲッター水和剤	1,500倍	７日前まで	3回以内		／	／	／
	アブラムシ類、アザミウマ類、コガネムシ類、ハダニ類	1B		マラソン乳剤	2,000倍	７日前まで	3回以内	1,000倍でマメシンクイガ、ハモグリバエ類に適用あり。	／	／	／
	アブラムシ類、カメムシ類	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	３日前まで	3回以内	フタスジヒメハムシにも適用あり。	／	／	／
	アブラムシ類、ハモグリバエ類、カメムシ類、ダイズサヤタマバエ	4A		スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	７日前まで	２回以内	3,000倍でフタスジヒメハムシに適用あり。	／	／	
	マメシンクイガ	3A		アグロスリン乳剤	2,000倍	７日前まで	3回以内	カメムシ類・フタスジヒメハムシにも適用あり。	／	／	／
	ウコンノメイガ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、マメシンクイガ	28		プレバソンフロアブル5	4,000倍	3日前まで	3回以内		／	／	／
	マメシンクイガ、カメムシ類、ハスモンヨトウ	3A		トレボン乳剤	1,000倍	14日前まで	２回以内		／	／	
	ハスモンヨトウ	28		フェニックスフロアブル	2,000倍	前日まで	３回以内	4,000倍でウコンノメイガ、ネキリムシ類に適用あり。	／	／	／

カリフラワーの防除暦（ブロッコリー）

【 病害虫防除 】

月	作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法 倍率・施用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数	注意事項	使用実績（使用月日） 1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
展着剤					ハイテンパワー	5,000～10,000倍		-	使用する際は、注意事項をよく読んで御使用下さい。	／	／	／	／	／
8月	育苗期後半	アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	28		ベリマークＳＣ	400倍	育苗期後半～定植当日	１回	セル成型育苗トレイ１箱又はペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）当たり0.5L灌注する。	／				
	定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	20～30kg	播種又は定植前	１回	全面土壌混和	／				
				21	オラクル粉剤	30kg	定植前	２回以内		／	／			
	播種時又は定植時	ネキリムシ類、ケラ	1B		ダイアジノン粒剤５	4～6kg	播種時又は定植時	２回以内	全面土壌混和又は作条土壌混和	／	／			
9月	生育期	アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	28		プレバソンフロアブル5	2,000倍	前日まで	３回以内		／	／	／		
		べと病、軟腐病		M1	Zボルドー	500倍	－	－	薬害が生ずる恐れがあるため、花蕾形成期までに散布する。野菜類で登録。	／	／	／	／	／
		アブラムシ類	29		ウララDF	2,000倍	14日前まで	2回以内	ブロッコリーの使用時期は前日まで	／	／			
10月		アザミウマ類、アブラムシ類	1B		マラソン乳剤	2,000～3,000倍	3日前まで	5回以内		／	／	／	／	／

● 展着剤は、水和剤に加用する。

野菜除草剤主要適用作物

除草剤名＼作物名	ねぎ	ほうれんそう	こまつな	トマト	ミニトマト	とうもろこし	きゅうり	なす	ばれいしょ	キャベツ	はくさい	だいこん	せいさい	えだまめ	備考
バスタ液剤	収穫前日 2回以内	収穫７日前 2回以内		収穫前日まで　3回以内			収穫前日まで 3回以内		収穫21日前まで 2回以内	収穫４５日前まで　2回以内			収穫７日前 2回以内	収穫14日前まで 3回以内	※１参照
ザクサ液剤	収穫前日 2回以内	・は種前 ・畦間処理 収穫７日前まで 2回以内		・定植前 ・畦間処理 収穫前日まで 3回以内			・定植前 ・畦間処理 収穫前日まで 3回以内	・定植前 ・畦間処理 収穫前日まで 3回以内	・畦間処理 収穫２１日前まで 2回以内	・定植前 ・畦間処理 収穫４５日前まで 2回以内				・は種、定植前 ・畦間処理 収穫１４日前まで 3回以内	
サンダーボルト００７	定植７日前まで 3回以内									定植７日前まで　1回		播種７日前まで 1回		は種１０日前まで 1回	1．土壌が流亡したり、崩れたりするおそれのある所では使用しない。
ラウンドアップマックスロード	収穫３０日前まで 3回以内	耕起前又はは種前まで 3回以内	耕起前まで 1回	耕起前まで　1回		出芽前まで 2回以内	収穫前日まで 2回以内		耕起前又は植付前まで 1回	耕起前又は定植５日前まで 1回		収穫5日前まで 2回以内	耕起前まで 1回	収穫前日まで 2回以内	※２参照
草枯らしＭＩＣ	収穫３０日前まで 3回以内	耕起前又は定植７日前まで　1回					耕起又は定植７日前まで　1回		耕起又は定植 7日前まで 1回	耕起又は定植 7日前まで　1回		耕起又はは種 7日前まで 1回	耕起又は定植７日前まで 1回	は種7日前まで 1回	1．展着剤の加用は必要ない。 2．散布前に雑草の地上部を刈り払わない。
トレファノサイド粒剤２．５	定植後但し 収穫３０日前まで 2回以内 （雑草発生前）			定植前（植穴掘前）1回（露地）	定植前（植穴掘前）1回（露地）		定植前（植穴掘前）1回（露地・移植）は種直後1回（露地・直播）	定植前（植穴掘前）1回（露地）	植付後～萌芽前 1回	定植前（植穴掘前）1回（移植）	定植前（植穴掘前）1回（移植）は種直後 1回（直播）			播種後出芽前 1回	※３参照
トレファノサイド乳剤			は種直後　1回 (非結球あぶらな科葉菜類として登録)	・定植前（植穴掘前）1回（露地）						定植前（植穴掘前）1回（移植）は種直後 1回（直播）		は種直後 1回（露地）	は種直後 1回		
ラッソー乳剤		は種直後 1回				は種後出芽前 1回				定植8日後まで 1回	は種直後 1回	は種直後 1回		は種後出芽前 1回	1．砂壌土では使用しない。 2．雑草発生後は効果がないので発芽前に散布する。
ゴーゴーサン乳剤	定植後10日後まで 1回					は種後出芽前 1回			植付後萌芽前 1回	定植前 1回	定植前 1回				1．キク科雑草及びツユクサに効果が劣る。 2．必ず雑草発生前に散布する。
プリグロックスL	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫3日前まで 3回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫14日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫14日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内	畦間処理 収穫３日前まで 5回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫14日前まで 3回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫3日前まで 3回以内	・萌芽直前 ・畦間処理 収穫前日まで 2回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫30日前まで 3回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫3日前まで 3回以内	・は種前又は植付前 ・畦間処理 収穫30日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内	畦間処理 収穫14日前まで 4回以内	1．極めて即効性のため、作物への直接散布は控える。
ナブ乳剤	収穫３０日前まで 1回	収穫７日前まで 1回		収穫１４日前まで 1回					収穫前日まで 2回以内	収穫14日前まで　1回		収穫14日前まで 1回	収穫7日前まで 1回	収穫14日前まで 1回	1．イネ科植物（スズメノカタビラを除く）にのみ殺草作用あり。 2．イネ科雑草3～5葉期に使用すること。
ロロックス	定植後但し 収穫３０日前まで 1回（露地） (雑草発生前)					は種直後 1回			植付直後～萌芽前 1回					播種直後～出芽前 1回	1．ねぎに使用する場合、作物にはかからないよう、畦間土壌散布する。 2．マルチ栽培、トンネル栽培では使用しない。
クレマート乳剤	定植活着後 但し 定植10日後まで 1回 (雑草発生前)						定植前 1回 (雑草発生前)	定植前又は定植・マルチ前 1回 (雑草発生前)	植付後萌芽前 1回 (雑草発生前)	定植前 1回 (雑草発生前)					1．発芽前処理剤なので、必ず雑草の発生前に処理する。

※使用する前に、必ず農薬のラベルをよく確認して下さい。

※１．バスタ液剤・ザクサ液剤はグルホシネートという同一成分を含んでいるため、総使用回数に注意する。

※２．サンダーボルト００７・ラウンドアップマックスロード・草枯らしＭＩＣは、同一成分であるグリホサートを含んでいるため総使用回数に注意する。
散布前に雑草の地上部を刈り払わない。

※３．薬害のおそれがあるため、なす（露地）に使用する場合、定植３日前までに使用する。
トレファノサイド粒剤２．５とトレファノサイド乳剤は、同一成分であるため、総使用回数に注意する。
必ず雑草発生前に散布する。

果樹病害虫防除基準

総合防除

耕種的防除、物理的防除、化学的防除を組みあわせた防除

○病害虫に侵された葉、枝、果実を取り除き、適切に処分する。

○夏期管理においても徒長枝や邪魔な枝の剪除に努め、薬剤が十分にかかるようにする。

○越冬病害虫の密度を下げるために粗皮けずりを行う。清耕栽培か中耕栽培を行い、草生園でも草刈り、除草を徹底する。

○樹勢が弱まると病害虫に侵されやすくなるので、土づくり肥料や有機質などの適正量の投入により健全な樹勢を保つ。

○枝や幹に薬剤を十分に散布する。

○気象条件に合わせた防除を行う。（干ばつや継続的な降雨などの気象条件の時は特に留意する。）

○散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に防除を行う。

○薬剤散布を行う場合、気温25℃以上の時は散布を控える。

（散布後、急激に温度が上がることが予想される場合も散布を控える。）

○薬剤調合時、鉄分を多く含む水は、果実の表面に障害を生じるので使用しない。

生物的防除

交信かく乱剤（性フェロモン剤）利用による防除

性フェロモンは昆虫が体外に分泌し、性行動を支配している重要な物質です。交信かく乱剤は人工的に合成した性フェロモンを園地内に充満させ、雌雄の交尾を阻害し、次世代の密度を抑制する防除方法です。

薬剤名	対象作物	設置時期	設置量（10a）	対象害虫								
				ハマキムシ類			シンクイムシ類			モモハモグリガ	コスカシバ	ヒメボクトウ
				ミダレカクモンハマキ	リンゴコカクモンハマキ	リンゴモンハマキ	モモシンクイガ	ナシヒメシンクイ	スモモヒメシンクイ			
コンフューザーN	果樹類	4月20日頃	150～200本	(○)	○	○	○	○	200本（すもも）			
コンフューザーR	果樹類（りんご）		100本	○	○	○	○	○				
コンフューザーMM	果樹類（もも）		120本	(○)	○	(○)	○	○		○		
ナシヒメコン	果樹類		50～100本					○	○（すもも）			
ハマキコンーN	果樹類	5月20日頃	150本	○	○	○						
スカシバコンL	果樹類		50～100本	さくらんぼ、もも、すもも（プルーン）、うめ、かき等で使用							○	
ボクトウコン-H	果樹類	6月中旬	100本	りんご、日本なし等								○

※　（○）は、害虫登録はない。

※　総合的に防除が可能なコンフューザーNを基本とする。

使用方法

交信かく乱剤の所定本数（コンフューザーN150～200本）を越冬世代の発生前の4月20日頃まで園地に設置する。
設置場所は目通りの高さに8割、残り2割を園地の周辺に多めに設置することが望ましい。
また、効果を高めるために、団地化をはかる。

利用上の留意事項

①小面積（1ha以下）では、設置区域外にいる既交尾雌が圃場内に飛び込んで産卵するため効果が劣るので、出来るだけ地域全体で設置する。

②性フェロモン成分は空気よりも重いため、傾斜地や起伏の多い場所では傾斜上部の設置を1～2割多くする。

③対象病害虫の発生密度が高いと雌雄の遭遇確立が高くなり、交尾阻害効果が期待できなくなる。

④風の強い場所で利用する場合は、フェロモンの流亡を防ぐため、防風ネットなどを利用する。

⑤対象害虫や対象外害虫が発生した場合には、殺虫剤による補完防除が必要となるため、圃場の害虫発生動向を観察する。

⑥交信かく乱剤は経年的に使用することによって、対象害虫の発生密度を低減させる効果がある。

～ 苗木・未結実樹の防除について ～

※近年、樹脂細菌病による枝枯れや苗木の枯死が増えてきております。定植から成木までの期間は下記により防除を徹底して下さい。

苗木消毒

植え付け前に、トップジンM水和剤　５００倍液に１０分間根部を浸漬する。（対象樹種：りんご・もも・なし、植付前１回）

○ さくらんぼ

回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名・倍数		注意事項
1	休眠期（発芽前）	越冬病害虫	石灰硫黄合剤	10倍	①　定植時に発芽していない場合は、石灰硫黄合剤１０倍を散布する。
	定 植 時 （発芽～発芽７日後）	樹脂細菌病	ＩＣボルドー６６Ｄ	40倍	
2	４月中旬～５月上旬	灰　星　病 褐色せん孔病 樹 脂 細 菌 病	ＩＣボルドー６６Ｄ	40倍	①　樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を削り取ってトップジンMペーストを塗布する。（３回以内） ②　ハマキムシ類の発生が心配される場合は、バイオマックスＤＦ2,000倍を散布する。
3	６月１０日 頃	褐色せん孔病 樹 脂 細 菌 病	ＩＣボルドー６６Ｄ	40倍	①　害虫防除は、さくらんぼの防除基準を参考に行う。
4	７月１０日 頃	褐色せん孔病 炭　疽　病 ハ ダ ニ 類	トレノックスフロアブル ダニコングフロアブル	500倍 2,000倍	
5	８月１０日 頃	褐色せん孔病 炭　疽　病	ＩＣボルドー６６Ｄ　または トレノックスフロアブル	40倍 500倍	
6	９月上旬～９月中旬	褐色せん孔病 樹 脂 細 菌 病	ＩＣボルドー６６Ｄ	40倍	
7	落 葉 後 （11月上旬～12月上旬）	越冬病害虫 樹脂細菌病	石灰硫黄合剤　　または ＩＣボルドー６６Ｄ	10倍 40倍	①　秋期に定植を行う場合は、定植後直ちにこれらの薬剤のいずれかを散布する。

○ りんご・西洋なし

回数	防除時期	対象病害虫		薬剤名・倍数		注意事項
		りんご	西洋なし			
1	休眠期（発芽前）	腐らん病 カイガラムシ類 ハダニ類	越冬病害虫 カイガラムシ類 ハダニ類	石灰硫黄合剤	10倍	
2	落花１週間後 （５月中旬）	輪　紋　病	輪　紋　病 胴　枯　病	トップジンM水和剤 または ベンレート水和剤	1,500倍 2,000倍	①　胴枯病の萎凋死花そうや枯死枝を徹底して取り除き処分する。切口にはトップジンMペーストを塗布する。（３回以内）
3	６月中旬	輪　紋　病 （ハマキムシ類 アブラムシ類）	輪　紋　病 （アブラムシ類）	ＩＣボルドー４１２	30倍	①　ハマキムシ類（コカクモンハマキを除く）またはアブラムシ類の発生が多い園地では、スプラサイド水和剤1,500倍を散布する。
4	７月上中旬	輪　紋　病 （ハダニ類）	輪　紋　病 （ハダニ類）	ＩＣボルドー４１２	30倍	①　ハダニ類の発生が多い園地では、ダニコングフロアブル2,000倍を散布する。
5	梅雨明け直後 （７月下旬）	輪　紋　病	輪　紋　病 （胴　枯　病）	ＩＣボルドー４１２	30倍	
6	８月中旬	輪　紋　病 （ﾅﾐﾊﾀﾞﾆ、ﾘﾝｺﾞﾊﾀﾞﾆ アブラムシ類 ハマキムシ類）	輪　紋　病 （ハダニ類 アブラムシ類 ハマキムシ類）	ＩＣボルドー４１２	30倍	①　ナミハダニ、リンゴハダニの発生が多い園地では、ダニゲッターフロアブル2,000倍を散布する。 ②　アブラムシ類、ハマキムシ類の発生が多い園地では、バイスロイドＥＷ2,000倍を散布する。

○ もも・すもも

回数	防除時期	対象病害虫 もも	薬剤名・倍数		対象病害虫 すもも	注意事項
1	発　芽　前	カイガラムシ類 ハダニ類 縮葉病	スプレーオイル 石灰硫黄合剤	50倍 10倍	カイガラムシ類 ハダニ類	
2	開　花　前	せん孔細菌病 縮葉病	ＩＣボルドー４１２	30倍	黒斑病 かいよう病	
3	５月中旬	灰星病・黒星病 せん孔細菌病 アブラムシ類	トレノックスフロアブル マイコシールド ウララＤＦ	500倍 2,000倍 2,000倍	炭疽病 黒斑病 アブラムシ類	
4	5月25日 頃	せん孔細菌病 灰星病・黒星病 枝折病	トレノックスフロアブル トップジンM水和剤	500倍 1,000倍	炭疽病 黒星病・灰星病	
5	6月25日 頃	灰星病・黒星病 ホモプシス腐敗病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ コスカシバ・ケムシ類 ハダニ類	ナリアWDG フェニックスフロアブル ダニコングフロアブル	2,000倍 4,000倍 2,000倍	灰星病 黒星病 シンクイムシ類 ケムシ類・ハマキムシ類 ナミハダニ	
6	8月10日 頃	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	アブラムシ類 シンクイムシ類	
7	９月中旬	せん孔細菌病 縮葉病 コスカシバ	ＩＣボルドー４１２ フェニックスフロアブル	30倍 4,000倍	黒斑病 かいよう病 コスカシバ	

※　新規に定植を行う場合は、排水対策を徹底し、せん孔細菌病対策として防風ネットを必ず設置する。

除　草　剤　使　用　基　準

1　果樹園に除草剤を使用する場合の一般的留意事項

①　果樹は一度薬害にあうと回復するのに数年もかかることがあるので、使用にあたっては十分注意する必要がある。

②　散布する水量は10ａ当たり150㍑を標準とし、草丈の大きいときは水量を増す必要がある。普通の農薬と違い希釈倍率でなく、単位面積当たりに投下される薬量で示されるので、水の量を多少かえてもよいが、散布むらのないように注意する。

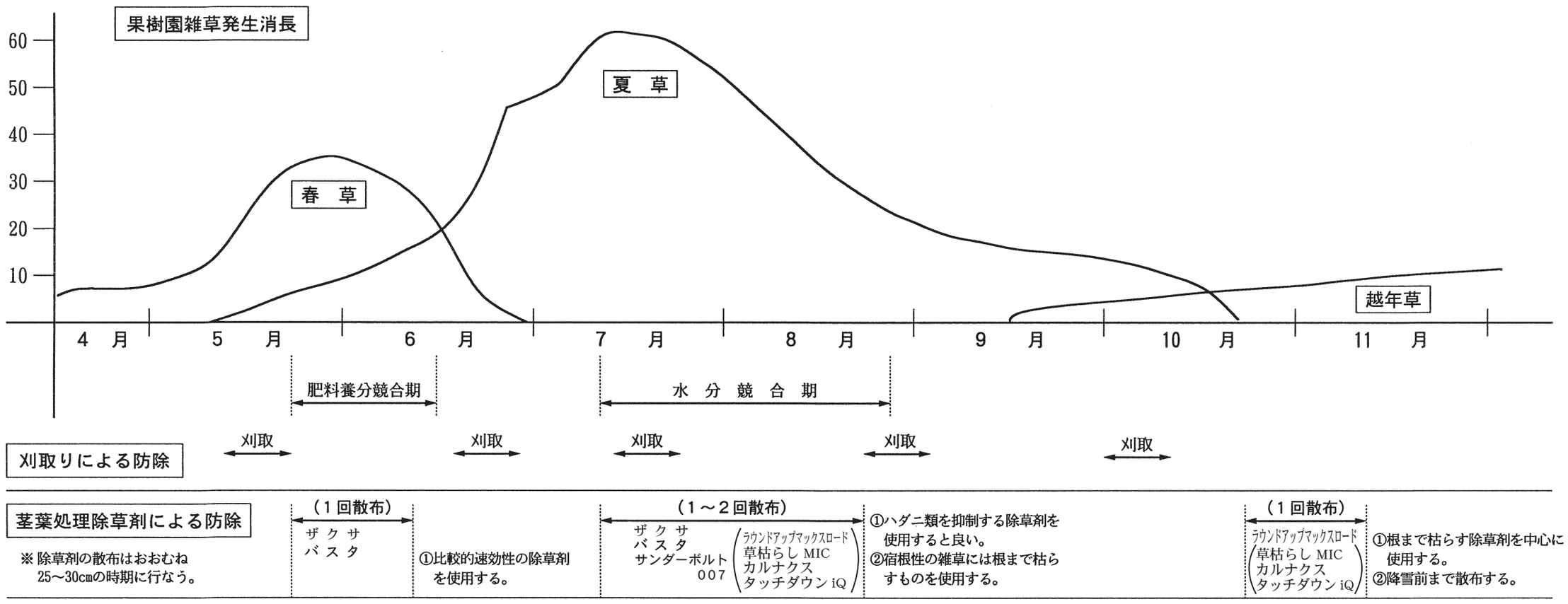
③　散布はなるべく晴天無風の日に行ない、噴霧する霧を粗くして吹き上げたり、風に飛ばされたりして、果樹の枝葉（とくに下枝）にかからないようにする。できるだけ除草剤専用噴口を使用する。

④　草丈が30 cm以上になると、効果が劣るので時期を失しないように使用する。

⑤　展着剤加用の場合は、除草剤専用のものを使用する。

※　ダニ剤散布予定日の７日前に除草剤を使用する。

2　果樹園での除草剤使用時期



3　果樹園用主要除草剤使用方法

除草剤名	適用樹種	10a当たりの散布液量	10a当たりの使用薬量	効果の発現	効果の持続期間	使用場面	備考
タッチダウンiQ	果樹類（かんきつを除く）	25～100㍑ スギナ（25～50㍑）	1年生　250～500cc 多年生　500～1,000cc （スギナ　1.5～2.0㍑）	3～5日後 7～10日後	60日	夏草生育期 秋期越年生雑草	1. 展着剤は加用しない。 2. 少量（25㍑）散布の時は専用ノズルを使用する。
サンダーボルト007		100㍑	1年生及び多年生 400～1,000cc	2～5日後	60～70日	春草・夏草生育期	1. 展着剤は加用せずむらなく散布する。 2. スベリヒユ（ひょう）・ギシギシに効果が高い。
草枯らしMIC		50～100㍑	1年生　250～500cc 多年生　500～1,000cc	7～14日後		秋期越年生雑草	1. グリホサートを含む剤について下記で整理して記載する。
クサクリーン液剤							
カルナクス							
ラウンドアップマックスロード		50～100㍑	1年生　200～500cc 多年生　500～1,000cc （スギナ　1.5～2.0㍑）	3～5日後		夏草生育期 秋期越年生雑草	1. 展着剤は加用しない。 2. 少量（25㍑）散布の時は専用ノズルを使用する。 3. 25倍で処理すると、スギナにも効果が高い。 4. 多年生強害雑草には高濃度でスポット処理も可能。
ザクサ液剤		100～150㍑	1年生　300～500cc 多年生　500～1,000cc	2～5日後	40～50日	春草・夏草生育期	
バスタ液剤	りんご、ぶどう、もも、なし、かき、さくらんぼ、小粒核果類、ネクタリン、ブルーベリー						

※　サンダーボルト007はキウイフルーツ、パイナップルに適用がない。草からしMIC、カルナクスはパイナップルに適用がない。

4　除草剤主要適用作物

	成分	薬剤特性	水田畦畔	ぶどう	さくらんぼ	うめ	りんご	なし	かき	もも	すもも（プルーン）	くり	樹木類
タッチダウンiQ	グリホサートを含む剤	根まで枯らす	収穫14日前まで 2回以内	収穫５日前まで ３回以内									雑草生育期 4回以内
サンダーボルト007			収穫14日前まで 2回以内	収穫７日前まで ３回以内									―
草枯らしMIC			収穫14日前まで 2回以内	収穫７日前まで ３回以内									雑草生育期 4回以内
クサクリーン液剤													
カルナクス													
ラウンドアップマックスロード			収穫前日まで 3回以内	収穫７日前まで ３回以内									雑草生育期 4回以内
ザクサ液剤	グルホシネートを含む剤	地上部のみ	収穫7日前まで 2回以内	収穫前日まで 3回以内			収穫21日前まで 3回以内	収穫前日まで 3回以内				収穫30日前まで 3回以内	雑草生育期 3回以内
バスタ液剤													

※　グリホサートを含む剤（ラウンドアップマックスロード、タッチダウンiQ、サンダーボルト007、草枯らしMIC、クサクリーン液剤、カルナクス）は同一成分の為、総使用回数に注意する。

※　グルホシネートを含む剤（ザクサ液剤、バスタ液剤等）は同一成分の為、総使用回数に注意する。

※　雑草生育期の草丈は30cm以内（作物によっては20cm以内）まで処理を行う。

紋 羽 病 対 策

土壌灌注

薬剤名　：　フロンサイドSC

使用方法

作物名	適用病害虫	使用時期	使用回数	希釈倍数	使用方法	
り　ん　ご	白紋羽病 （紫紋羽病 りんごのみ）	収穫４５日前まで	１回	５００倍 または 1,０００倍	５００倍の場合 １樹当たり５０～１００㍑土壌灌注 1,０００倍の場合 １樹当たり１００～２００㍑　土壌灌注	灌注水量が１００㍑以上必要な場合、1,０００倍液を処理する。
な　　し		収穫３０日前まで				
ぶ　ど　う		収穫２１日前まで				
も　　も		収穫３０日前まで				
さくらんぼ		収穫３０日前まで		５００倍	１樹当たり５０～１００㍑土壌灌注	

※　土壌灌注は対象樹だけでなく広範囲に実施した方が効果が高い。
※　生育期間中でも紋羽病の影響で生育が思わしくない場合は土壌灌注を行う。

系 統 別 農 薬 一 覧

○　殺 虫 剤

系統名		薬剤名	系統名		薬剤名
合成ピレスロイド系 （注意：魚類に対する毒性が極めて強い）		**アグロスリン** **バイスロイド** **スカウト** **テルスター** **サイハロン** **アーデント** トレボン アディオン ロディー MR．ジョーカー	有機リン系		**スプラサイド** **スミチオン** **ダイアジノン** ダーズバン サイアノックス ジェイエース エルサン オルトラン バイジット マラソン
ネオニコチノイド系		**モスピラン** **ダントツ** **バリアード** **スタークル** アクタラ アドマイヤー アルバリン ベストガード	カーバメート系		オリオン デナポン バッサ ランネート
ジアミド系		**フェニックス** **エクシレル** **サムコル** （プレバソン フェルテラ） テッパン	ＢＴ系	生　菌	**バイオマックス** ファイブスター デルフィン エスマルク チューリサイド チューンアップ
ＩＧＲ系	キチン合成阻害	**アプロード** アタブロン カスケード デミリン マッチ		死　菌	トアロー
	脱皮ホルモン	ファルコン マトリック ロムダン	スピノシン系		**ディアナ**
吸汁阻害剤		**ウララ**			

○　殺 菌 剤（主として糸状菌用）

系統名	薬剤名	予防・治療別	系統名	薬剤名	予防・治療別
ＥＢＩ （ｴﾙｺﾞｽﾃﾛｰﾙ生合成阻害）	**アンビル** **インダー** **オンリーワン** **スコア** **マネージ** サンリット オーシャイン トリフミン テクリード	予　防 治療剤	ストロビルリン系 （Ｑｏｉ）	**アミスター** **ストロビー** **ファンタジスタ** **スクレア** フリント オリブライト （**ナリア**）	予　防 治療剤
ジカルボキシイミド系	**ロブラール** スミレックス	予　防 治療剤	有機銅剤	**オキシンドー** キノンドー ドキリン （**オキシラン**）	予防剤
ベンゾイミダゾール系	**ベンレート** **トップジンM**	予　防 治療剤	有機硫黄	**ジマンダイセン** **トレノックス** **ペンコゼブ** **デラン**	予防剤
抗生物質	**アグレプト** **マイコシールド** バリダシン	予　防 治療剤	微生物剤	**エコホープ** バイオキーパー ボトキラー	予防剤
ＳＤＨＩ	**パレード** フルーツセイバー **オルフィン** カナメ	予　防 治療剤			

殺 ダ ニ 剤 の 登 録 一 覧 表

（2021年用）

ＪＡ全農山形　　生産資材部

2020年12月1日 作成

薬剤名	ナミハダニ 卵	ナミハダニ 幼虫	ナミハダニ 成虫	リンゴハダニ 卵	リンゴハダニ 幼虫	リンゴハダニ 成虫	感受性の低下実績	オウトウハダニ ※1	チャノホコリダニ ※1	サビダニ ※1	ﾎﾞﾙﾄﾞｰ液・混用	希釈倍数 りんご	おうとう	もも	ぶどう	なし	かき	きゅうり	トマト	なす	すいか	いちご	メロン	食用ぎく	菊（花き）	ばら	特性および注意事項
カネマイト フロアブル	○	◎	◎	○	◎	◎	無し	（○）	○	○	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000		1,000		1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000		・アリエッティＣと混用する場合は、カネマイトを先に希釈し混用する。 ・ボルドー液との混用は避け、近接散布は前後１４日以上あける。 ・うめ、すもも、うり類（漬物用）、ピーマンにも登録あり。
スターマイト フロアブル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	有り	（○）	○	×	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000		・ハダニの全ての生育ステージに対して効果がある。 ・ダニサラバフロアブル、ダニコングフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のため スターマイトフロアブルは使用しない。 ・ボルドー液との混用および１４日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。 ・有袋栽培の洋なしに使用する場合、果実の薬斑が目立つおそれがあるので、袋かけ前の散布はしない。 ・ベフラン液剤、アリエッティＣ水和剤と混用する場合、スターマイトフロアブルを先に溶かす。 ・有用昆虫（ミツバチ、マルハナバチ、マメコバチ）およびカブリダニ等の天敵に対する影響が少ない。 ・他に小粒核果類、食用ほおずき、りんどう、ピーマン等で登録あり。
ダニサラバ フロアブル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	有り	（○）	×	×	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000		1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	・ハダニの全ての生育ステージに対して効果を示し、特に幼虫から若虫に対して効果がある。 ・天敵その他有用動物に対して影響が少ない。 ・ボルドー液との混用は避け、近接散布は前後１４日以上あける。 ・アリエッティＣ水和剤、カルシウム剤と混用する場合、ダニサラバフロアブルを先に溶かす。 ・スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のため ダニサラバフロアブルは使用しない。 ・他に小粒核果類、ピーマン、花き類・観葉植物等で登録あり。
ダニコング フロアブル	○	◎	◎	△	◎	◎	無し	（○）	×	×	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000			3,000	3,000	3,000	3,000		2,000	2,000	・ハダニの全ての生育ステージに対して効果がある。 ・天敵その他有用動物に対して影響が少ない。 ・ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のため ダニコングフロアブルは使用しない。 ・ボルドー液との混用および１４日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。 ・他に小粒核果類等で登録あり。
ダニゲッター フロアブル	◎	◎	△	◎	◎	△	無し	（○）	○	○	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000											・ハダニ類の全ステージに効果があるが、特に卵・幼虫に対する効果が高く、残効性が長い。 ・遅効的だが、成虫には不妊作用を示す。 ・ボルドー液との同時散布および前後１４日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので避ける。 ・新梢伸長期の日本なし（二十世紀を除く）に使用する場合、以下の事項に注意する。 （1）豊水、新高、長十郎には新葉に薬害を生じる恐れがあるので使用しない。 （2）有機リン剤との同時散布および１０日以内の近接散布は新葉に薬害を生じる恐れがあるので避ける。 ・おうとうに使用する場合は、新梢伸長期に薬害を生じることがあるので、葉の硬化を持って使用する。 ・キャベツ、はくさい、こまつな、ねぎ、ばらに対して薬害を生ずる恐れがあるので、付近にある場合 かからないように注意すること。 ・開花期の水稲に本剤がかかった場合、不稔などの薬害を生じる場合があるのでかからないように注意する。 ・小粒核果類で登録あり。
マイトコーネ フロアブル	◎	◎	◎	△	○	○	有り	（○）	×	○	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000		1,000		・ミツバチ・蚕およびカブリダニ等の天敵に対する影響が少ない。 ・ボルドー液との混用は避け、近接散布は前後１４日以上あける。 ・小粒核果類、ミニトマト、ピーマン、食用ほおずきにも登録あり。
コロマイト水和剤	◎	◎	◎	◎	◎	◎	無し	（○）	○	○	○	2,000			2,000	2,000		2,000		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	・蚕に長期毒性があるので、桑葉にかからないように注意すること。 ・乳剤は、薬害防止のため安全性が確認された薬剤のみ混用する。 ・乳剤は、汎用性展着剤以外および葉面散布肥料とは混用しない。 ・乳剤はトマト･ミニトマトのコナジラミ類､トマトサビダニ､ハモグリバエ類で登録あり。 ・乳剤は小粒核果類、ミニトマト、食用ほおずきにも登録あり。
コロマイト乳剤												1,000	1,000	1,000		1,000		1,000	1,500	1,500	1,000	（親株床）1,000	1,000		1,500		
コテツ フロアブル	◎	◎	◎	×	×	×	無し	○	○	○	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000		2,000	2,000	2,000	・ぶどうは収穫60日前までの使用なので注意する。 ・蚕毒性があるので、桑園周辺では飛散しないように注意する。 ・ハクサイ･ダイコン･きゅうり･なすの幼苗期は薬害の恐れがあるので使用不可。 ・オクラではオオタバコガで登録あり。 ・スイカではミナミキイロアザミウマにも登録あり。 ・小粒核果類、ミニトマト、ピーマン、花き類・観葉植物（きく、ストックを除く）にも登録あり。
バロック フロアブル	◎	◎	×	◎	◎	×	有り（ﾅﾐﾊﾀﾞﾆ）	（○）	×	○（殺卵）	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000		2,000		2,000	2,000	2,000	2,000		2,000	2,000	・成虫に対する活性はないが、卵・幼虫・若虫の各ステージに活性が高く長い残効がある。 ・ボルドー液散布１４日前まで使用し、ボルドー液散布後は使用しない。 ・すもも、花き類・観葉植物にも登録あり。

※１：（　）内に表示されている記載については、各県ならびに本会農薬研究室の試験結果ならびにメーカーの情報を参考に県本部独自で評価した内容となっています。
※本資料作成以降に農薬の適用内容が変更になる場合もあるため、ご使用される際にはラベルの登録内容を再度ご確認にうえ、ご指導いただきますようお願いいたします。なお、記載している希釈倍数については、登録濃度の高い希釈倍数のみを記載しています。
※各薬剤共、ボルドー液と混用して使用すると効果が低下したり、残効期間が短くなるようなので留意願います。
※殺ダニ剤は抵抗性回避のため各薬剤共、年1回に厳守願います。

令和３年　さくらんぼ病害虫防除暦

JAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数（薬量／水１００ﾘｯﾄﾙ）			農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量（１０ａ）	注意事項	月日	防除実績（メモ）
休眠期	カイガラムシ類	① スプレーオイル	５０倍	（２ﾘｯﾄﾙ）	発芽前まで ―	３５０ﾘｯﾄﾙ	（１）マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。 （２）灰星病の発生を防止するため休眠期中に全面耕うんし、地表面の乾燥をはかる。 （３）灰星病防除のため樹上のミイラ果を除去し埋没する。 （４）カイガラムシ類の発生の多い園地は、太枝にブラシかけを行い、天気の良い温暖な日を選び散布する。	／	
	褐色せん孔病	② ムッシュボルドーＤＦ	５００倍	（２００ｇ）	休眠期 ―				
	カイガラムシ類幼虫	③ アプロードフロアブル	１,０００倍	（１００ｍｌ）	７日前まで ２回以内				
大玉生産と摘果作業の労力削減のため、３月中旬～４月上旬に摘芽を行う。									
灰星病重点防除 開花直前	幼果菌核病・灰星病 褐色せん孔病・炭疽病	① トレノックスフロアブル	５００倍	（２００ｍｌ）	２１日前まで ５回以内	４５０ﾘｯﾄﾙ	（１）訪花昆虫の活動前（１５℃になる前）にできるだけ防除を終了する。	／	
	ハマキムシ類 ケムシ類	② バイオマックスDF	２,０００倍	（５０ｇ）	前日まで ―				
満開期（平年　佐藤錦 ４月２９日頃）	幼果菌核病 褐色せん孔病 灰星病 黒斑病・炭疽病	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（１０ｍｌ）	―	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）前年幼果菌核病の多い園地では散布時期が遅れない様に注意する。 （２）樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を削り取ってキズの癒合促進のため、トップジンMペーストを塗布する。（３回以内） （３）訪花昆虫の活動前（１５℃になる前）にできるだけ防除を終了する。 （４）前年、炭そ病の発生した園地ではオーソサイド水和剤８０ ８００倍（３日前まで５回以内）を加用散布する。	／	
		② ナリアWDG	２,０００倍	（５０ｇ）	前日まで ３回以内				
前回散布７日後	灰星病 褐色せん孔病 炭疽病	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（１０ｍｌ）	―	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）訪花昆虫の活動前（１５℃になる前）にできるだけ防除を終了する。	／	
		② オーソサイド水和剤８０	８００倍	（１２５ｇ）	３日前まで ５回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤（BT剤を除く）の散布は行わない。									
前回散布７日後（５月中旬）	灰星病 黒かび病	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（１０ｍｌ）	―	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）灰星病、ナミハダニの発生を防止するため、この時期以降園地の草刈を徹底する。 （２）ハマキムシ類の発生が多い園地では、フェニックスフロアブル４,０００倍（前日まで２回以内）を加用散布する。	／	
		② ロブラール水和剤	１,０００倍	（１００ｇ）	前日まで ３回以内				
	オウトウショウジョウバエ カメムシ類	③ モスピラン顆粒水溶剤	２,０００倍	（５０ｇ）	前日まで １回				
フェロモン剤設置時期（５月２０日頃）【　コスカシバ対策はスカシバコンL　５０～１００本／１０ａ　】								／	
ハダニ対策	ダニ剤散布７日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布４日前に草刈を実施する。								
前回散布１０日後（５月下旬）被覆前散布	灰星病	① スコア顆粒水和剤	２,０００倍	（５０ｇ）	前日まで ３回以内	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）**早生種の収穫７日前までに散布する。** （２）この回以降収穫が終わるまで展着剤は使用しない。 （３）**ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。** （４）バイスロイドＥＷは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 バイスロイドＥＷは、さくらんぼのみ４,０００倍登録	／	
	ショウジョウバエ類 オウトウハマダラミバエ	② バイスロイドＥＷ	**4,000倍 倍数注意！**	（２５ｍｌ）	７日前まで ２回以内				
	ハダニ類	③ ダニコングフロアブル	２,０００倍	（５０ｍｌ）	前日まで １回				
ショウジョウバエ耕種的対策	○ 摘果が遅れた場合には、摘果した果実を適正に処理する。 ○ 果実は、適期収穫を行い、過熟果にならないうちに収穫を終了する。 ○ 病虫害果・キズ果・過熟果等のもぎ残しは、きれいに収穫し処分（土中に埋める）する。								
６月上旬	灰星病	① パレード１５フロアブル	２,０００倍	（５０ｍｌ）	前日まで ２回以内	５００ﾘｯﾄﾙ	※この時期のショウジョウバエの発生に注意する。	／	
	オウトウショウジョウバエ カメムシ類	② スタークル顆粒水溶剤	２,０００倍	（５０ｇ）	前日まで ２回以内				
６月中旬	灰星病・黒斑病・炭疽病 褐色せん孔病	① ナリアWDG	２,０００倍	（５０ｇ）	前日まで ３回以内	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）ナリアWDGは、西洋なし（ル・レクチェ）ぶどう（ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ）に薬害がでるので注意する。	／	
	オウトウショウジョウバエ ハマキムシ類	② エクシレルSE	２,５００倍	（４０ｍｌ）	前日まで ３回以内				
６月下旬	灰星病・炭疽病・黒斑病 褐色せん孔病	① オンリーワンフロアブル	２,０００倍	（５０ｍｌ）	前日まで ３回以内	５００ﾘｯﾄﾙ		／	
	オウトウショウジョウバエ カメムシ類	② ダントツ水溶剤	２,０００倍	（５０ｇ）	前日まで ２回以内				
７月上旬（晩生種）	灰星病・炭疽病・黒斑病 褐色せん孔病	① ナリアWDG	２,０００倍	（５０ｇ）	前日まで ３回以内	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）テルスターフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	／	
	ショウジョウバエ類 ハダニ類	② テルスターフロアブル	４,０００倍	（２５ｍｌ）	前日まで ２回以内				
褐色せん孔病・炭疽病対策として、雨よけハウスの被覆を外したら降雨前に薬剤散布を行う。									
収穫後重点防除 収穫直後	褐色せん孔病 炭疽病 灰星病	① トレノックスフロアブル	５００倍	（２００ｍｌ）	２１日前まで ５回以内	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。	／	
	アブラムシ類 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ	② ダイアジノン水和剤３４	１,０００倍	（１００ｇ）	１４日前まで ２回以内				
	ハダニ類	③ ダニゲッターフロアブル	２,０００倍	（５０ｍｌ）	前日まで １回				
７月下旬	せん孔病	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（１０ｍｌ）	―	５００ﾘｯﾄﾙ		／	
		② オキシラン水和剤	６００倍	（１６６ｇ）	収穫終了～落葉期まで ３回以内				
８月上旬	せん孔病	① オキシラン水和剤	６００倍	（１６６ｇ）	収穫終了～落葉期まで ３回以内	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）褐色せん孔病の多い場合はＩＣボルドー６６Ｄ ４０倍を単用散布する。 （２）ハダニ類の発生が多い園地では、コロマイト乳剤 １,０００倍を単用散布する。（７日前まで１回、展着剤は加用しない） （３）**この回以前にアプロードフロアブルを２回使用した場合は使用しない。** **※カイガラムシ類重点防除時期（第２回孵化期）カイガラムシ類の発生が多い園地では今回散布７日後にスプラサイド水和剤　１,５００倍を追加散布する。（７日前まで３回以内）**	／	
	カイガラムシ類幼虫	② アプロードフロアブル	１,０００倍	（１００ｍｌ）	７日前まで ２回以内				
９月上中旬	コスカシバ ハマキムシ類	① フェニックスフロアブル	４,０００倍	（２５ｍｌ）	前日まで ２回以内	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）枝の枯死や樹脂の漏出が多い園地では、９月上旬から中旬にＩＣボルドー６６Ｄ４０倍を散布する。 さらに、落葉後（１１月上旬から１２月上旬）に石灰硫黄合剤１０倍又は、ＩＣボルドー６６Ｄ４０倍を散布する。 （２）枝幹に十分散布する。 （３）灰星病の発生が多い園地では落葉後清耕し、越冬菌の密度を下げる。	／	

２０２０年１１月1日現在

さくらんぼ

令和３年　もも病害虫防除暦

JAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数（薬量／水１００ℓ）	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量（10a）	注意事項	月日	防除実績（メモ）
大玉生産と摘果作業の労力削減の為、開花前までに摘らいを行う。							
せん孔細菌病に侵された枝の剪除に努める。							
発芽前まで（平年発芽 3月23日頃）	カイガラムシ類 →	① スプレーオイル　50倍（2ℓ）	発芽前まで —	350ℓ	（1）前年度の灰星病の被害果及び被害枝は徹底して除去する。	／	
	せん孔細菌病 縮葉病・灰星病 →	② トレノックスフロアブル　500倍（200ml）	7日前まで 5回以内				
	カイガラムシ類幼虫 →	③ アプロードフロアブル　1,000倍（100ml）	14日前まで 3回以内				
フェロモン剤設置時期（4月20日頃）【ハマキムシ・シンクイムシ・モモハモグリガ対策はコンフューザーMM120本／10a】						／	
せん孔細菌病 開花前	せん孔細菌病 縮葉病 →	① ICボルドー412　30倍（3.3kg）	—	350ℓ	（1）開花始め以降は薬害が発生するので散布しない。	／	
せん孔細菌病の伝染源となる春型枝病斑は4月下旬から7月上旬頃まで発生するので、園地を見回り発病枝は見つけしだい基部から剪除し、癒合促進のためバッチレートを塗布する。せん孔細菌病は葉が傷み病気にかかり易くなるので防風ネットを設置する。また、スピードスプレーヤで防除する場合、風量を葉が傷まない程度に落として防除する。（生育期間）							
落花直後（80%落花時）	灰星病 黒星病 →	① アンビルフロアブル　1,000倍（100ml）	前日まで 3回以内	350ℓ		／	
	せん孔細菌病 →	② アグレプト水和剤　1,000倍（100g）	60日前まで 2回以内				
	ハマキムシ類・ケムシ類 モモハモグリガ・コスカシバ シンクイムシ類 →	③ フェニックスフロアブル　4,000倍（25ml）	前日まで 2回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤（BT剤を除く）の散布は行わない。							
前回散布 7日後	灰星病・黒星病 せん孔細菌病 →	① トレノックスフロアブル　500倍（200ml）	7日前まで 5回以内	400ℓ		／	
	せん孔細菌病 →	② マイコシールド　2,000倍（50g）	21日前まで 5回以内				
	アブラムシ類 カメムシ類・シンクイムシ類 →	③ モスピラン顆粒水溶剤　2,000倍（50g）	前日まで 3回以内				
フェロモン剤設置時期（5月20日頃）【コスカシバ対策はスカシバコンL50～100本／10a】【ハマキムシ対策はハマキコンーN150本／10a（すでにコンフューザーMM、Nを設置した場合は必要ない】						／	
5月下旬（5／25頃）	せん孔細菌病 灰星病・ホモプシス腐敗病 →	① デランフロアブル　600倍（166ml）	7日前まで 4回以内	400ℓ	（1）この回以降、灰星病が例年見られる場合はパスポート顆粒水和剤の1,000倍（前日まで6回以内）を単用散布する。（2）スプラサイド水和剤は、さくらんぼの「紅きらり」に薬害を生じるので注意する。	／	
	カイガラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ →	② スプラサイド水和剤　1,500倍（66g）	21日前まで 2回以内				
6月上旬	黒星病 灰星病・炭疽病 ホモプシス腐敗病 →	① オンリーワンフロアブル　2,000倍（50ml）	前日まで 3回以内	400ℓ	さくらんぼ園地への飛散に注意	／	
	せん孔細菌病 →	② マイコシールド　2,000倍（50g）	21日前まで 5回以内				
6月中旬	せん孔細菌病 灰星病・ホモプシス腐敗病 →	① デランフロアブル　600倍（166ml）	7日前まで 4回以内	400ℓ	（1）スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。さくらんぼ園地への飛散に注意	／	
	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ →	② スカウトフロアブル　2,000倍（50ml）	前日まで 5回以内				
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。						
6月下旬（6／25頃）	灰星病・黒星病 ホモプシス腐敗病 →	① ナリアWDG　2,000倍（50g）	前日まで 2回以内	400ℓ	（1）**アブラムシ類の多い園地では、ウララDF 4,000倍を散布する。（14日前まで2回以内）**（2）ナリアWDGは、西洋なし（ル・レクチェ）ぶどう（ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ）に薬害がでるので注意する。（3）殺ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。	／	
	シンクイムシ類 モモハモグリガ（ハマキムシ類） →	② エクシレルSE　2,500倍（40ml）	前日まで 3回以内				
	ハダニ類 →	③ ダニコングフロアブル　2,000倍（50ml）	前日まで 1回				
7月上旬	黒星病 灰星病 →	① インダーフロアブル　5,000倍（20ml）	前日まで 4回以内	400ℓ	（1）せん孔細菌病の多い園地では7月上旬にトレノックスフロアブル500倍（収穫7日前まで5回以内）単用散布する。さくらんぼへの飛散に十分注意する。	／	
	アブラムシ類・カイガラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類・カメムシ類 →	② モスピラン顆粒水溶剤　2,000倍（50g）	前日まで 3回以内				
7月中旬（袋掛け前）	灰星病・黒星病 ホモプシス腐敗病 →	① スクレアフロアブル　3,000倍（33ml）	前日まで 3回以内	400ℓ	（1）アーデントフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	／	
	アブラムシ類 シンクイムシ類 カメムシ類・ハダニ類 →	② アーデントフロアブル　2,000倍（50ml）	前日まで 3回以内				
7月下旬	灰星病・黒星病 ホモプシス腐敗病 →	① ベルクートフロアブル　2,000倍（50ml）	前日まで 3回以内	400ℓ		／	
	シンクイムシ類 モモハモグリガ（ハマキムシ類） →	② エクシレルSE　2,500倍（40ml）	前日まで 3回以内				
	ハダニ類 →	③ マイトコーネフロアブル　1,000倍（100ml）	前日まで 1回				
8月上中旬（8／10頃）	灰星病・黒星病・炭疽病 ホモプシス腐敗病 →	① オンリーワンフロアブル　2,000倍（50ml）	前日まで 3回以内	400ℓ	（1）降雨が続く場合は、アンビルフロアブル1,000倍（前日まで3回以内）を単用散布する。	／	
	アブラムシ類・カイガラムシ類 シンクイムシ類・カメムシ類 モモハモグリガ →	② モスピラン顆粒水溶剤　2,000倍（50g）	前日まで 3回以内				
収穫を終了した園地でも、シンクイムシ類の防除を実施する。							
8月下旬（晩生種）（8／25頃）	灰星病 黒星病 ホモプシス腐敗病 →	① アミスター10フロアブル　1,000倍（100ml）	前日まで 3回以内	400ℓ	（1）防除効果を高めるため、降雨前に散布する。（2）スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	／	
	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 →	② スカウトフロアブル　2,000倍（50ml）	前日まで 5回以内				
9月上旬（晩生種）	灰星病 黒星病 →	① インダーフロアブル　5,000倍（20ml）	前日まで 4回以内	400ℓ	（1）防除効果を高めるため降雨前に散布する。	／	
	シンクイムシ類 モモハモグリガ →	② エクシレルSE　2,500倍（40ml）	前日まで 3回以内				
9月中下旬（晩生種）	灰星病・黒星病 ホモプシス腐敗病 →	① ベルクートフロアブル　2,000倍（50ml）	前日まで 3回以内	400ℓ	（1）スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	／	
	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ →	② スカウトフロアブル　2,000倍（50ml）	前日まで 5回以内				
この防除以降、晩生種には灰星病対策としてパレード15フロアブル2,000倍（前日まで　2回以内）を単用散布する。							
せん孔細菌病重点防除 収穫後（9月上旬以降）	せん孔細菌病 モモハモグリガ コスカシバ シンクイムシ類 →	① アビオンーE（展着剤）　2,000倍（50ml）	—	400ℓ	（1）ICボルドー412　30倍を使用できない園地ではトレノックスフロアブル500倍（7日前まで5回以内）を必ず散布する。（2）せん孔細菌病対策として必ず防除を行う。但し、気象予報に注意し台風等風雨が予想される場合は事前に防除を行う。	／	
		② ICボルドー412　30倍（3.3kg）	—				
		③ フェニックスフロアブル　4,000倍（25ml）	前日まで 2回以内				
（前回散布14日後）	せん孔細菌病 →	① アビオンーE（展着剤）　2,000倍（50ml）	—	400ℓ	（1）せん孔細菌病対策として必ず防除を行う。但し、気象予報に注意し台風等風雨が予想される場合は事前に防除を行う。	／	
		② ICボルドー412　30倍（3.3kg）	—				
（前回散布14日後）	せん孔細菌病 →	① アビオンーE（展着剤）　2,000倍（50ml）	—	400ℓ		／	
		② ICボルドー412　30倍（3.3kg）	—				
コスカシバの発生が多い園地では、トラサイドA乳剤200倍（収穫後～発芽前の幼虫食入期　1回）を樹幹及び主枝に十分散布する。							

2020年11月1日現在

もも

令和３年　西洋なし病害虫防除暦

JAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数（薬量／水１００ℓ）	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量（１０ａ）	注意事項	月日	防除実績（メモ）
発芽前まで	カイガラムシ類 →	① スプレーオイル　５０倍　（２ℓ）	発芽前まで ―	３５０ℓ	（１）マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。 （２）薬剤散布前に必ず粗皮削りを行う。 （３）５月中旬まで輪紋病のいぼ皮病斑は必ず削り取りトップジンMペーストを塗布する。（３回以内） （４）石灰硫黄合剤を使用できない園地では、スプレーオイル５０倍（発芽前まで）、トップジンM水和剤1,000倍（前日まで６回以内）、アプロードフロアブル1,000倍（３０日前まで２回以内）を散布する。	／	
	越冬病害虫 →	② 石灰硫黄合剤　１０倍　（１０ℓ）	発芽前まで ―				
胴枯病対策	西洋なしは胴枯病に弱く、薬剤だけでは防げないため、以下の耕種的防除を実施する。常日頃から園地を見て回り、早期発見に努める。 病患部を少しでも残すと再発するので、発病部を発見したら剪除し、切れない枝は健全部を含めて大きく削り取り、トップジンMペースト（３回以内）を塗布する。健全な樹勢を保ち枝の更新に努め、明るい風通しの良い園地づくりを目指す。					／	
フェロモン剤設置時期（４月２０日頃）【　ナシヒメシンクイ対策は ナシヒメコン ５０～１００本／１０ａ　】						／	
前年、黒斑細菌病の発生がみられた園地では、開花前にICボルドー４１２　３０倍を散布する。							
満開直後（１００%開花時）	黒星病・黒斑病 輪紋病 →	① オキシンドー水和剤８０　1,２００倍　（８３ｇ）	３日前まで ９回以内	４００ℓ	（１）訪花昆虫の活動時間前（１５℃になる前）にできるだけ防除を終了する。	／	
	ハマキムシ類 シンクイムシ類 →	② フェニックスフロアブル　4,０００倍　（２５ｍｌ）	前日まで ２回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤（BT剤を除く）の散布は行わない。							
落花１週間後（５月中旬）	うどんこ病 黒星病 胴枯病・腐らん病 輪紋病 →	① アイヤーエース（展着剤）　１０,０００倍　（１０ｍｌ）	―	４００ℓ	（１）胴枯病の萎凋死花そうや、枯死枝は病部を確認し、徹底して取り除き処分する。 （２）訪花昆虫の活動時間前（１５℃になる前）にできるだけ防除を終了する。	／	
		② トップジンM水和剤　1,０００倍　（１００ｇ）	前日まで ６回以内				
	アブラムシ類・カメムシ類 シンクイムシ類 →	③ モスピラン顆粒水溶剤　2,０００倍　（５０ｇ）	前日まで ３回以内				
５月下旬（５／２５頃）	黒星病・黒斑病 輪紋病 →	① アイヤーエース（展着剤）　１０,０００倍　（１０ｍｌ）	―	５００ℓ	（１）輪紋病・胴枯病の重要な防除時期であるので散布間隔をあけないよう７月下旬まで枝幹にも十分散布する。 （２）スプラサイド水和剤を使用する場合、薬害の恐れがあるので高温時（２５℃以上）に散布はしない。また、さくらんぼの「紅きらり」に薬害が生じるため、注意する。	／	
	カメムシ類 アブラムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類 →	② オキシラン水和剤　６００倍　（１６６ｇ）	３日前まで ９回以内				
		③ スプラサイド水和剤　1,５００倍　（６６ｇ）	２１日前まで ２回以内				
仕上げ摘果は４頂芽に１果を目安とし、落花後４０日（６月上旬）ぐらいまで終わす。基部から数えて２～４番目の果実を残す。							
輪紋病 ６月上旬	黒星病 輪紋病 →	① アビオンーE（展着剤）　2,０００倍　（５０ｍｌ）	―	５００ℓ	（１）**この回以降、輪紋病・胴枯病の重要な防除時期であるので、防除間隔があかないようにする。** （２）散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に防除を行う。	／	
		② スクレアフロアブル　3,０００倍　（３３ｍｌ）	前日まで ３回以内				
	シンクイムシ類 アブラムシ類 →	③ バリアード顆粒水和剤　4,０００倍　（２５ｇ）	前日まで ３回以内				
６月中旬	輪紋病 黒星病・赤星病 黒斑病・うどんこ病 胴枯病 →	① アビオンーE（展着剤）　2,０００倍　（５０ｍｌ）	―	５００ℓ		／	
		② パレード１５フロアブル　2,０００倍　（５０ｍｌ）	前日まで ２回以内				
	輪紋病 黒星病 →	③ ベンレート水和剤　2,０００倍　（５０ｇ）	前日まで ４回以内				
ハダニ対策	ダニ剤散布７日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布４日前に草刈を実施する。						
重点防除時期 ６月下旬（平年６／２５）前回散布１０日後	黒斑病 黒星病 輪紋病 →	① アビオンーE（展着剤）　2,０００倍　（５０ｍｌ）	―	５００ℓ	（１）アブラムシ類の発生の多い園地では、ウララＤＦ 4,000倍（１４日前まで２回以内）を加用散布する。 （２）ナリアWDGは、西洋なし（ル・レクチェ）ぶどう（ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ）に薬害がでるので注意する。 **輪紋病（胴枯病）対策** さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、ナリアWDGに変えて **オキシラン水和剤　600倍** （3日前まで9回以内）を散布する。	／	
		② ナリアWDG　2,０００倍　（５０ｇ）	前日まで ３回以内				
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 アブラムシ類 →	③ エクシレルＳＥ　2,５００倍　（４０ｍｌ）	前日まで ３回以内				
	ハダニ類 →	④ ダニコングフロアブル　2,０００倍　（５０ｍｌ）	前日まで １回				
※有機銅剤散布後すぐに降雨があった場合追加散布する。 薬剤散布を行う場合は、気温２５℃以上の時は散布を控えるとともに、散布後急激に温度が上がる事が予想される場合も散布を控える。							
７月上旬	黒星病 黒斑病 輪紋病 →	① アビオンーE（展着剤）　2,０００倍　（５０ｍｌ）	―	５００ℓ	（１）さくらんぼに隣接している園地では、オキシラン水和剤とスプラサイド水和剤を、ファンタジスタ顆粒水和剤3,０００倍（前日まで３回以内）・スタークル顆粒水溶剤2,０００倍（前日まで３回以内）に変えて散布する。	／	
		② オキシラン水和剤　６００倍　（１６６ｇ）	３日前まで ９回以内				
	カメムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類 →	③ スプラサイド水和剤　1,５００倍　（６６ｇ）	２１日前まで ２回以内				
７月中旬	黒星病 黒斑病 輪紋病 →	① アビオンーE（展着剤）　2,０００倍　（５０ｍｌ）	―	５００ℓ	（１）バイスロイドＥＷは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	／	
		② オキシラン水和剤　６００倍　（１６６ｇ）	３日前まで ９回以内				
	アブラムシ類 ハマキムシ類 シンクイムシ類 →	③ バイスロイドEW　2,０００倍　（５０ｍｌ）	７日前まで ２回以内				
７月下旬	黒星病 黒斑病 輪紋病 →	① アビオンーE（展着剤）　2,０００倍　（５０ｍｌ）	―	５００ℓ		／	
		② オキシンドー水和剤８０　1,２００倍　（８３ｇ）	３日前まで ９回以内				
	アブラムシ類 シンクイムシ類 →	③ バリアード顆粒水和剤　2,０００倍　（５０ｇ）	前日まで ３回以内				
	ハダニ類 →	④ マイトコーネフロアブル　1,０００倍　（１００ｍｌ）	前日まで １回				
８月上中旬（８／１０頃）	黒星病 黒斑病 輪紋病 →	① アイヤーエース（展着剤）　１０,０００倍　（１０ｍｌ）	―	５００ℓ	（１）今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、コロマイト水和剤2,０００倍（前日まで１回）を散布する。 **この回サイハロン水和剤を使えないところでは、アグロスリン水和剤1,000倍（前日まで3回以内）に変えて散布する。**	／	
		② オキシラン水和剤　６００倍　（１６６ｇ）	３日前まで ９回以内				
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 アブラムシ類 カメムシ類 →	③ サイハロン水和剤　2,０００倍　（５０ｇ）	７日前まで ３回以内				
８月下旬（８／２５頃）	黒斑病 輪紋病 →	① ナリアWDG　2,０００倍　（５０ｇ）	前日まで ３回以内	５００ℓ		／	
	シンクイムシ類 ハマキムシ類・アブラムシ類 →	② エクシレルＳＥ　2,５００倍　（４０ｍｌ）	前日まで ３回以内				
９月上旬	黒星病・黒斑病 輪紋病 →	① アイヤーエース（展着剤）　１０,０００倍　（１０ｍｌ）	―	５００ℓ	（１）アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	／	
		② オキシンドー水和剤８０　1,２００倍　（８３ｇ）	３日前まで ９回以内				
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 →	③ アグロスリン水和剤　1,０００倍　（１００ｇ）	前日まで ３回以内				
９月中旬	輪紋病 腐らん病 →	① アイヤーエース（展着剤）　１０,０００倍　（１０ｍｌ）	―	５００ℓ	（１）今回以降シンクイムシ類の発生が見られる園地では、サムコルフロアブル１０　5,０００倍（前日まで３回以内）を散布する。	／	
		② トップジンM水和剤　1,０００倍　（１００ｇ）	前日まで ６回以内				
	シンクイムシ類 アブラムシ類・カメムシ類 →	③ バリアード顆粒水和剤　2,０００倍　（５０ｇ）	前日まで ３回以内				

２０２０年１１月1日現在

西洋なし

令和３年　りんご病害虫防除暦　（No1）

JAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数（薬量／水１００ℓ）	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量（１０ａ）	注意事項	月日	防除実績（メモ）
散布前までに輪紋病の原因となる、いぼ皮病斑をけずり取りトップジンMペーストを塗布する。（３回以内）						／	
発芽直前（平年ふじ発芽 4月3日頃）	カイガラムシ類 ハダニ類	① スプレーオイル　５０倍（２ℓ）	発芽前まで —	３５０ℓ	（1）マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。 （2）カイガラムシ類幼虫の多い園地では、アプロードフロアブル1,000倍（30日前まで2回以内）を散布する。	／	
	腐らん病（黒星病）	② ベフラン液剤２５　1,000倍（100ml）	休眠期 6回以内				
黒星病対策として雨前散布を原則とし、散布間隔を１０日以上空けない。薬液は十分量（４００Ｌ以上／１０ａ）散布する。							
展葉期（花そう葉が2～3枚 展葉した頃）雨前散布	黒星病 斑点落葉病（モニリア病）・輪紋病 褐斑病・炭疽病	① ＩＣボルドー４１２　３０倍（3．3ｋｇ）	—	４００ℓ	（1）ＩＣボルドー４１２を散布できない園地では、アイヤーエース10,000倍にパスポート顆粒水和剤1,000倍（45日前まで3回以内）を散布する。	／	
前回散布７日後 雨前散布	黒星病 モニリア病	① アイヤーエース（展着剤）　１０,０００倍（10ml）	—	４００ℓ	（1）ストライド顆粒水和剤は、開花前及び開花から収穫前日までの総使用回数を3回以内とする。	／	
		② ストライド顆粒水和剤　1,500倍（66ｇ）	開花前まで 2回以内				
フェロモン剤設置時期（４月２０日頃）【　ナシヒメシンクイ対策はナシヒメコン５０～１００本／１０ａ　】						／	
摘花剤の散布　：　１回目側花の７～８割開花時、えき花芽を対象として2回目を散布する場合は、１回目の２～３日後に１回　エコルーキー１００～１５０倍（2回以内）を３００～６００ℓ／１０ａ めしべに充分薬液がかかるように散布（中心花の結実が良好と思われる場合に使用する）。ＳＳで散布する場合はファンを止めて散布する。							
特別散布 防除間隔が空く場合 雨前散布	斑点落葉病 黒星病・褐斑病 黒点病・輪紋病 炭疽病・赤星病	① トレノックスフロアブル　５００倍（200ml）	３０日前まで 5回以内	４００ℓ		／	
開花直前（平年ふじ開花始 5月2日頃）雨前散布	黒星病 黒点病・うどんこ病 斑点落葉病・赤星病	① オルフィンプラスフロアブル　2,000倍（50ml）	7日前まで 3回以内	４００ℓ	（1）訪花昆虫の活動時間前（１５℃になる前）にできるだけ防除を終了する。	／	
	ハマキムシ類 シンクイムシ類 キンモンホソガ	② フェニックスフロアブル　4,000倍（25ml）	前日まで 2回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤（ＢＴ剤を除く）の散布は行わない。							
落花直後 ふじの中心花 ８０％落花時 雨前散布	うどんこ病	① アイヤーエース（展着剤）　１０,０００倍（10ml）	—	４００ℓ	（1）腐らん病の発生している園地では、トップジンM水和剤1,000倍（前日まで6回以内）を必ず散布する。 （2）ハマキムシ類の発生が見られる園地では、バイオマックスDF2,000倍を加用散布する。（前日まで、ー） （3）マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずる場合があるので注意する。	／	
	黒星病・褐斑病 赤星病・斑点落葉病 黒点病・モニリア病	② スコア顆粒水和剤　3,000倍（33ｇ）	14日前まで 3回以内				
	炭疽病	③ ジマンダイセン水和剤　６００倍（166ｇ）	30日前まで 3回以内				
薬剤による摘果は「ふじ」「紅玉」を対象にミクロデナポン水和剤８５、1,２００倍（２回以内）を１０a当たり４００ℓ散布する。散布時期は満開後２～３週間頃							
腐らん病対策	常日頃から腐らん病に注意して園地を見て回り、早期発見に努める。発病部を発見したら病患部は、健全部を含めて大きく削り取り、病患部が幹全体におよんでいる場合は、樹全体を処分（根元から切り取り処分）する。枝腐らんは切り取り処分する。					／	
前回散布 7日後 雨前散布	黒星病・褐斑病・炭疽病 赤星病・斑点落葉病 黒点病・モニリア病	① アイヤーエース（展着剤）　１０,０００倍（10ml）	—	５００ℓ	（1）マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずる場合があるので注意する。	／	
		② ジマンダイセン水和剤　６００倍（166ｇ）	30日前まで 3回以内				
	うどんこ病・褐斑病 黒星病・腐らん病	③ トップジンM水和剤　1,000倍（100ｇ）	前日まで 6回以内				
	アブラムシ類・カメムシ類 リンゴワタムシ	④ モスピラン顆粒水溶剤　2,000倍（50ｇ）	前日まで 3回以内				
5月下旬（落花１５日後）雨前散布	黒星病・褐斑病 黒点病・輪紋病 炭疽病・赤星病	① アイヤーエース（展着剤）　１０,０００倍（10ml）	—	５００ℓ		／	
		② トレノックスフロアブル　５００倍（200ml）	30日前まで 5回以内				
	斑点落葉病 カイガラムシ類 アブラムシ類 コアオカスミカメ リンゴワタムシ	③ ロブラール水和剤　1,500倍（66ｇ）	14日前まで 5回以内				
		④ トランスフォームフロアブル　2,000倍（50ml）	前日まで 3回以内				
6月上旬 雨前散布	黒星病・褐斑病・輪紋病 斑点落葉病・炭疽病	① アイヤーエース（展着剤）　１０,０００倍（10ml）	—	５００ℓ	**黒星病対策** さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、 **トレノックスフロアブル　500倍** （30日前まで5回以内）を加用散布する。	／	
		② ナリアWDG　2,000倍（50ｇ）	前日まで 3回以内				
	アブラムシ類・カメムシ類 リンゴワタムシ	③ モスピラン顆粒水溶剤　2,000倍（50ｇ）	前日まで 3回以内				
前年、モモシンクイガの発生が多かった園地では、カルホス微粒剤Fを１０ａ当たり５ｋｇ（夏繭営繭時～第一世代成虫羽化期まで４回以内）６月中旬～７月に２回地表面散布する。						／	
6月中旬（6／15頃）雨前散布	黒星病 黒点病・うどんこ病 斑点落葉病・赤星病	① アビオンーE（展着剤）　2,000倍（50ml）	—	５００ℓ	（1）有機銅剤は満開４０日（6月中旬）以前の散布はサビ果の発生を多くするので早期散布をさける。	／	
		② オルフィンプラスフロアブル　2,000倍（50ml）	7日前まで 3回以内				
ハダニ対策	ダニ剤散布７日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布４日前に草刈を実施する。						
6月下旬（6／25頃）雨前散布	黒星病 黒点病・褐斑病 斑点落葉病・輪紋病	① アビオンーE（展着剤）　2,000倍（50ml）	—	５００ℓ	（1）ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラの無いように十分散布する。 （2）**降雨等により防除間隔があくと褐斑病が発生しやすくなるので注意する。**	／	
		② ファンタジスタ顆粒水和剤　3,000倍（33ｇ）	前日まで 3回以内				
	ハマキムシ類 シンクイムシ類 ヒメボクトウ	③ エクシレルＳＥ　2,500倍（40ml）	前日まで 3回以内				
	ハダニ類	④ ダニコングフロアブル　2,000倍（50ml）	前日まで 1回				
※　薬剤散布を行う場合は、気温２５℃以上の時は散布を控えるとともに、散布後急激に温度が上がる事が予想される場合も散布を控える。							
仕上げ摘果は遅くても6月下旬まで終わらせる。（昂林は７月中旬まで）							

2020年１１月1日現在

令和３年　りんご病害虫防除暦　（No2）

JAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数（薬量／水１００ﾘｯﾄﾙ）			農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量（１０ａ）	注意事項	月日	防除実績（メモ）
果実腐敗病重点防除 ７月上旬 雨前散布	黒星病・黒点病 炭疽病・輪紋病 斑点落葉病・褐斑病	① アビオンーＥ（展着剤）	2,000倍	（50ml）	―	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）斑点落葉病の伝染源を少なくするため余分な徒長枝は剪除する。 （２）有機銅剤は散布後降雨があると、薬害が発生するので注意する。（特につがる、スターキングデリシャス、王林） （３）さくらんぼに隣接している園地では、ナリアWDG 2,000倍（前日まで3回以内）スタークル顆粒水溶剤2,000倍（前日まで3回以内）に変えて散布する。	／	
	アブラムシ類・ハマキムシ類 カメムシ類・キンモンホソガ クワコナカイガラムシ シンクイムシ類	② オキシラン水和剤	６００倍	（１６６ｇ）	１４日前まで ４回以内				
		③ サイアノックス水和剤	1,000倍	（１００ｇ）	１４日前まで １回				
腐敗病重点防除 ７月中旬 雨前散布	黒星病・黒点病 炭疽病・輪紋病 斑点落葉病・褐斑病	① アビオンーＥ（展着剤）	2,000倍	（50ml）	―	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）バイスロイドＥＷは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 **青つがる（盆用）には、オキシラン水和剤の収穫前日数に注意する。**	／	
		② オキシラン水和剤	６００倍	（１６６ｇ）	１４日前まで 4回以内				
	腐らん病 輪紋病・褐斑病	③ トップジンM水和剤	1,000倍	（１００ｇ）	前日まで ６回以内				
	ハマキムシ類 キンモンホソガ シンクイムシ類	④ バイスロイドEW	2,000倍	（50ml）	７日前まで ４回以内				
７月下旬 （７／２５頃） 雨前散布	黒星病 褐斑病 炭疽病 輪紋病 斑点落葉病	① アビオンーＥ（展着剤）	2,000倍	（50ml）	―	５００ﾘｯﾄﾙ	**青つがる（盆用）には、オキシンドー水和剤８０に変えてベルクート水和剤1,000倍（前日まで6回以内　但し、開花期以降は3回以内）を散布する。**	／	
		② オキシンドー水和剤８０	1,200倍	（８３ｇ）	１４日前まで ４回以内				
	アブラムシ類 ギンモンハモグリガ キンモンホソガ シンクイムシ類	③ バリアード顆粒水和剤	4,000倍	（２５ｇ）	前日まで ３回以内				
	ナミハダニ	④ マイトコーネフロアブル	1,000倍	（100ml）	前日まで １回				
落果防止剤の使用	「つがる」は収穫開始予定日の約２５日前に、ストッポール液剤1,000倍を１０ａ当たり４５０～６００ﾘｯﾄﾙ散布する。その後追加散布を要する場合は１０日程度後にも１回散布できる。（収穫開始予定日の７日前まで２回以内、但し２回散布の場合は１０日程度間隔をあける。）							／	
８月上中旬 （８／１０頃）	褐斑病 黒星病 炭疽病・輪紋病 斑点落葉病	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（10ml）	―	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）今回以降ハダニ類の発生が見られる園地では、コロマイト水和剤2,000倍（前日まで１回）を単用散布する。 （２）サイハロン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 **早生種の散布は収穫１４日前まで終了する。**	／	
		② オキシラン水和剤	６００倍	（１６６ｇ）	１４日前まで ４回以内				
	ハマキムシ類 シンクイムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	③ サイハロン水和剤	2,000倍	（５０ｇ）	７日前まで ３回以内				
８月下旬 （８／２５頃）	黒星病 斑点落葉病 輪紋病・褐斑病 すす点病・すす斑病	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（10ml）	―	５００ﾘｯﾄﾙ		／	
		② ダイパワー水和剤	1,000倍	（１００ｇ）	前日まで ６回以内 （但し、開花期以降は３回以内）				
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 ヒメボクトウ	③ エクシレルＳＥ	2,500倍	（40ml）	前日まで ３回以内				
９月上旬	黒星病 黒点病 （すす点病・すす斑病）	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（10ml）	―	５００ﾘｯﾄﾙ		／	
		② オーソサイド水和剤８０	1,000倍	（１００ｇ）	前日まで ６回以内				
	アブラムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類	③ モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	（５０ｇ）	前日まで ３回以内				
落果防止剤の使用	ストッポール液剤1,000倍を１０ａ当たり４５０～６００リットルを散布する。（収穫開始予定日の２５日前から７日前まで1回） 昂林　９月　１日頃　／　やたか・千秋　９月５日頃 紅玉・スターキング　９月１０日頃　／　王　林　１０月１日頃 「　秋　陽　」は　９月１０日頃 「こうとく」は１０月１０日頃 ヒオモン水溶剤2,000倍を１０ａ当たり３００～６００ℓ散布する。（収穫開始予定日の２１日前～４日前　１回）							／	
９月中下旬	褐斑病 黒星病・黒点病 すす点病・すす斑病 炭疽病 斑点落葉病	① ストライド顆粒水和剤	1,500倍	（６６ｇ）	開花から 収穫前日まで ３回以内	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）今回以降収穫前まで、低温で降雨が続く場合は、ストライド顆粒水和剤、1,500倍（前日まで３回以内）を散布する。 （２）ストライド顆粒水和剤は、開花前及び開花から収穫前日までの総使用回数を３回以内とする。 （３）スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	／	
	キンモンホソガ ギンモンハモグリガ シンクイムシ類 ハマキムシ類	② スカウトフロアブル	2,000倍	（50ml）	前日まで 5回以内				
休眠期	腐らん病	① アビオンーE（展着剤）	2,000倍	（50ml）	―	３５０ﾘｯﾄﾙ	（１）**腐らん病（黒星病）防除のため、必ず散布する。**	／	
		② ベフラン液剤２５	1,000倍	（100ml）	休眠期 ６回以内				

２０２０年１１月1日現在

令和３年　ぶどう(ジベ処理デラ)病害虫防除暦

JAてんどう

晩腐病対策のためのカサかけ・枝かけ具の徹底

1．第２回ジベ処理直後できる限り早くカサかけを行なう。
2．カサかけが遅れると効果が劣る。
3．カサかけは、雨もりを防ぐため果梗に密着するよう丁寧に行なう。
4．カサかけと枝かけ具の併用は、更に効果が高い。
5．枝かけ具は休眠期から５月下旬までにかけ、その後風などでずれた場合は効果が劣るので随時手直しする。
6．収穫後できるだけ早く除去する。

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数（薬量／水１００㍑）	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量（１０ａ）	注意事項	月日	防除実績（メモ）
休眠期	晩腐病 黒とう病 つる割病	① ベフラン液剤２５　２５０倍（４００ｍｌ）	休眠期 １回	２００㍑	（１）前年の房とり残しの部分や巻ヒゲ及び結果母枝の枯死部分などの除去は、晩腐病防除に重要であるので徹底する。 （２）前年度晩腐病が発生した園地では、結果母枝にトップジンＭペースト３倍液（休眠期３回以内）を塗布する。なお、萌芽後の使用は薬害が生じる恐れがあるので、必ず萌芽前に使用する。 （３）前年ブドウトラカミキリの発生が多かった園地では、訪花昆虫の活動前にトラサイドＡ乳剤３００倍（発芽前２回以内）を加用散布する。	／	
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤の散布は行わない。							
展葉２～３枚 （５月上中旬）	枝膨病・晩腐病 黒とう病・べと病	① デランフロアブル　１,０００倍（１００ｍｌ）	落弁期まで（但し、７５日前まで） ２回以内	２００㍑	訪花昆虫の活動がない時に散布する。	／	
	フタテンヒメヨコバイ アザミウマ類 カイガラムシ類 コガネムシ類成虫	② モスピラン顆粒水溶剤　２,０００倍（５０ｇ）	１４日前まで 3回以内				
第１回目ジベ処理は満開予定日の約１４日前に１００ｐｐｍ（２㍑の水に薬量は２００ｍｇ）で実施する。 処理が遅れた場合は、アグレプト液剤１,０００倍を加用して処理する。						／	
開花直前 第１回ジベ処理後 （６月上旬）	晩腐病・黒とう病 うどんこ病・べと病 灰色かび病	① アイヤーエース（展着剤）　１０,０００倍（１０ｍｌ）	－	３００㍑	（１）コウモリガの加害時期なので、幹周辺を清掃し、見つけ次第捕殺する。	／	
		② テーク水和剤　１,０００倍（１００ｇ）	４５日前まで ２回以内				
	コガネムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	③ アグロスリン水和剤　２,０００倍（５０ｇ）	２１日前まで 5回以内				
落花直後 （６月中旬）	晩腐病・褐斑病 黒とう病・さび病 灰色かび病・べと病	① アミスター１０フロアブル　１,０００倍（１００ｍｌ）	３０日前まで ３回以内	３００㍑	（１）汚染防止のため、この時期より展着剤を使わない。 （２）アミスター１０フロアブルはりんごに薬害が出るので絶対に飛散しない様に注意する。	／	
	カメムシ類・コガネムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	② ダントツ水溶剤　２,０００倍（５０ｇ）	前日まで 3回以内				
第２回目ジベ処理は満開約１０日後に７５ｐｐｍ（２㍑の水に薬量は１５０ｍｇ）で実施する。						／	
第2回ジベ処理後 （６月下旬）	黒とう病・晩腐病 さび病・灰色かび病	① オンリーワンフロアブル　２,０００倍（５０ｍｌ）	前日まで ３回以内	３００㍑	（１）６月下旬になると、晩腐病の胞子が雨によって多く飛散するので丁寧に散布する。	／	
ハダニ対策	ダニ剤散布７日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布４日前に草刈を実施する。						
７月上旬	黒とう病・べと病 晩腐病 褐斑病 灰色かび病	① ストロビードライフロアブル　２,０００倍（５０ｇ）	１４日前まで ３回以内	３００㍑	（１）ストロビードライフロアブルはさくらんぼに薬害がでるので注意する。 （２）ダニ剤を散布する場合は通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。	／	
	ハダニ類	② コロマイト水和剤　２,０００倍（５０ｇ）	７日前まで ２回以内				
べと病・さび病の多発する園地では、７月上中下の３回棚上面からＩＣボルドー６６Ｄ　５０倍（３００㍑以上／１０ａ）を散布する。						／	
仕上げ摘房は、坪当たり４５房を目安に７月上旬頃まで終了する。							
収穫直後	べと病 さび病	① アビオンーＥ（展着剤）　２,０００倍（５０ｍｌ）	－	３００㍑	（１）さび病、べと病の発生が多い園地では、９月上中旬にもＩＣボルドー６６Ｄ５０倍を散布する。 （２）ブドウトラカミキリの多い園地では、休眠期にトラサイドＡ乳剤３００倍を散布する。（休眠期２回以内）トラサイドＡ乳剤はアブラナ科野菜（ハクサイ、青菜、ダイコン）などに薬害がでるので注意する。	／	
		② ＩＣボルドー６６Ｄ　５０倍（２ｋｇ）	－				
	スカシバ類 ハマキムシ類 ケムシ類	③ フェニックスフロアブル　４,０００倍（２５ｍｌ）	１４日前まで ２回以内				

２０２０年１１月1日現在

令和３年　ぶどう(大粒種)病害虫防除暦

（ シャインマスカット・キャンベルス・ナイヤガラ・スチューベン・ピオーネ・巨峰等 ）

JAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数（薬量／水１００ℓ） 露地栽培	雨よけハウス栽培	農薬使用基準 収穫前使用回数	散布量（１０ａ）	注意事項	月日	防除実績（メモ）
休眠期 （ビニール被覆前）	晩腐病 褐斑病 黒とう病 つる割病	① ベフラン液剤２５ ２５０倍（４００ｍｌ）	① ベフラン液剤２５ ２５０倍（４００ｍｌ）	休眠期 １回	２００ℓ	（１）前年の房とり残しの部分や巻ヒゲ及び結果母枝の枯死部分などの除去は晩腐病防除に重要であるので徹底する。 （２）前年度晩腐病が発生した園地では、結果母枝にトップジンＭペースト３倍液（休眠期３回以内）を塗布する。なお、萌芽後の使用は薬害が生じる恐れがあるので、必ず萌芽前に使用する。 （３）前年ブドウトラカミキリ（キクイムシ）の発生が多かった園地では、訪花昆虫の活動前にトラサイドＡ乳剤３００倍（発芽前２回以内）を加用散布する。	／	
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤の散布は行わない。								
展葉２～３枚 （５月上中旬）	枝膨病・晩腐病 黒とう病・べと病	① デランフロアブル １,０００倍（１００ｍｌ）	① デランフロアブル １,０００倍（１００ｍｌ）	落弁期まで （但し、７５日前まで） ２回以内	２００ℓ	訪花昆虫の活動がない時に散布する。	／	
	フタテンヒメヨコバイ アザミウマ類 カイガラムシ類 コガネムシ類成虫	② モスピラン顆粒水溶剤 ２,０００倍（５０ｇ）	② モスピラン顆粒水溶剤 ２,０００倍（５０ｇ）	１４日前まで ３回以内				
展葉７～８枚 （５月下旬）	黒とう病 晩腐病・褐斑病 さび病・べと病	① アイヤーエース（展着剤） １０,０００倍（１０ｍｌ）	① アイヤーエース（展着剤） １０,０００倍（１０ｍｌ）	―	２００ℓ	（１）この回以降、マンゼブを含む剤（ペンコゼブ水和剤、テーク水和剤等）を使用する場合、総使用回数は２回以内なので注意する。	／	
		② ペンコゼブ水和剤 １,０００倍（１００ｇ）	② ペンコゼブ水和剤 １,０００倍（１００ｇ）	４５日前まで ２回以内				
	うどんこ病 黒とう病・さび病	③ マネージＤＦ ５,０００倍（２０ｇ）		２１日前まで ３回以内				
クビアカスカシバ対策	パダンＳＧ水溶剤１,５００倍（２１日前まで５回以内）を樹幹部に十分かかるよう丁寧に単用散布する。さくらんぼへの飛散に注意する。						／	
開花前 （６月上旬）	晩腐病 灰色かび病	① アイヤーエース（展着剤） １０,０００倍（１０ｍｌ）	① アイヤーエース（展着剤） １０,０００倍（１０ｍｌ）	―	３００ℓ	（１）コウモリガの加害時期なので、幹周辺を清掃し、見つけ次第捕殺する。 （２）スイッチ顆粒水和剤はさくらんぼに薬害が発生する恐れがある為、飛散に十分注意する。 さくらんぼに飛散する恐れがある園地では、スイッチ顆粒水和剤、ペンコゼブ水和剤に替えてテーク水和剤１,０００倍（４５日前まで２回以内）を散布する。	／	
	黒とう病 晩腐病・褐斑病 さび病・べと病	② スイッチ顆粒水和剤 ２,０００倍（５０ｇ） さくらんぼ飛散厳禁	② スイッチ顆粒水和剤 ２,０００倍（５０ｇ） さくらんぼ飛散厳禁	３０日前まで ２回以内				
	チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ コガネムシ類	③ ペンコゼブ水和剤 １,０００倍（１００ｇ）		４５日前まで ２回以内				
		④ アグロスリン水和剤 ２,０００倍（５０ｇ）	③ アグロスリン水和剤 ２,０００倍（５０ｇ）	２１日前まで ５回以内				
	スカシバ類 ハマキムシ類 ケムシ類	⑤ フェニックスフロアブル ４,０００倍（２５ｍｌ）	④ フェニックスフロアブル ４,０００倍（２５ｍｌ）	１４日前まで ２回以内				
商品性の高い果実を生産するため、満開前に房づくりを行う。								
落花直後 （６月中旬）	灰色かび病・べと病 黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病・枝膨病	① アミスター１０フロアブル １,０００倍（１００ｍｌ）	① アミスター１０フロアブル １,０００倍（１００ｍｌ）	３０日前まで ３回以内	３００ℓ	（１）満開時の散布をさける。 （２）汚染防止のため、この時期より展着剤を使わない。 （３）アミスター１０フロアブルはりんごに薬害が出るので絶対に飛散しない様に注意する。	／	
	べと病	② ベトファイター顆粒水和剤 ２,０００倍（５０ｇ）		３０日前まで ３回以内				
	カメムシ類 クビアカスカシバ チャノキイロアザミウマ	③ テッパン液剤 ２,０００倍（５０ｍｌ）	② テッパン液剤 ２,０００倍（５０ｍｌ）	前日まで ２回以内				
	ハダニ類		③ ダニコングフロアブル ２,０００倍（５０ｍｌ）	前日まで １回				
６月下旬	褐斑病・黒とう病 さび病 灰色かび病	① パレード１５フロアブル ２,０００倍（５０ｍｌ）		７日前まで ２回以内	３００ℓ	（１）アザミウマ類が多い園地では、アーデントフロアブル２,０００倍（前日まで４回以内）を加用散布する。	／	
	べと病	② アリエッティ水和剤 ８００倍（１２５ｇ）		３０日前まで ３回以内				
ハダニ対策	ダニ剤散布７日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布４日前に草刈を実施する。							
落花１５日後 （７月上旬）	黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病		① オンリーワンフロアブル ２,０００倍（５０ｍｌ）	前日まで ３回以内	３００ℓ		／	
	チャノキイロアザミウマ		② テルスターフロアブル ４,０００倍（２５ｍｌ）	１４日前まで １回				
	べと病	① ランマンフロアブル ２,０００倍（５０ｍｌ）		１４日前まで ３回以内		（１）ダニ剤を散布する場合は通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 （２）露地栽培で、べと病が発生した場合は、ベトファイター顆粒水和剤２,０００倍（３０日前まで３回以内）を単用散布する。	／	
	カメムシ類・コガネムシ類 フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	② ダントツ水溶剤 ２,０００倍（５０ｇ）		前日まで ３回以内				
	ハダニ類	③ コロマイト水和剤 ２,０００倍（５０ｇ）		７日前まで ２回以内				
袋かけ前 （７月中旬）	黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病	① オンリーワンフロアブル ２,０００倍（５０ｍｌ）		前日まで ３回以内	２５０ℓ	（１）さび病の多発するところでは、７月上旬及び７月下旬に棚上からＩＣボルドー６６Ｄ５０倍を散布する。	／	
	チャノキイロアザミウマ	② テルスターフロアブル ４,０００倍（２５ｍｌ）		１４日前まで １回				
	カメムシ類・コガネムシ類 フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ		① ダントツ水溶剤 ２,０００倍（５０ｇ）	前日まで ３回以内				
袋かけ直後 （７月下旬）	べと病	① レーバスフロアブル ３,０００倍（３３ｍｌ）		７日前まで ３回以内	２５０ℓ	（１）ストロビードライフロアブルはさくらんぼに薬害がでるので注意する。	／	
	黒とう病・褐斑病 べと病・晩腐病 灰色かび病	② ストロビードライフロアブル ２,０００倍（５０ｇ）	① ストロビードライフロアブル ２,０００倍（５０ｇ）	１４日前まで ３回以内				
収穫前 （８月中旬）	黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病	① オンリーワンフロアブル ２,０００倍（５０ｍｌ）	① オンリーワンフロアブル ２,０００倍（５０ｍｌ）	前日まで ３回以内	２５０ℓ	（１）さび病、べと病の多発するところでは９月上旬にもＩＣボルドー６６Ｄ５０倍を棚上から散布する。	／	
	カメムシ類・コガネムシ類 フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	② ダントツ水溶剤 ２,０００倍（５０ｇ）		前日まで ３回以内				
８月下旬	べと病 さび病	① アビオンーＥ（展着剤） ２,０００倍（５０ｍｌ）		―	２５０ℓ		／	
		② ＩＣボルドー６６Ｄ ５０倍（２ｋｇ）		―				
収穫後	べと病 さび病	① アビオンーＥ（展着剤） ２,０００倍（５０ｍｌ）	① アビオンーＥ（展着剤） ２,０００倍（５０ｍｌ）	―	３００ℓ	（１）ブドウトラカミキリの多い園地では、休眠期にトラサイドＡ乳剤３００倍を散布する。（休眠期２回以内）トラサイドＡ乳剤はアブラナ科野菜（ハクサイ、青菜、ダイコン）などに薬害がでるので注意する。	／	
	スカシバ類	② ＩＣボルドー６６Ｄ ５０倍（２ｋｇ）	② ＩＣボルドー６６Ｄ ５０倍（２ｋｇ）	―				
	ハマキムシ類 ケムシ類	③ フェニックスフロアブル ４,０００倍（２５ｍｌ）	③ フェニックスフロアブル ４,０００倍（２５ｍｌ）	１４日前まで ２回以内				

【植物成長調節剤使用基準】　（シャインマスカット・ピオーネ等）

使用薬剤	使用時期 満開予定１４日前～開花始期	１回目 満開期から満開３日後	２回目 満開１０～１５日後	使用回数
アグレプト液剤	１,０００倍			１回
ジベレリン （ジベラ錠）		１２．５～２５ｐｐｍ （１錠あたり水２～１ℓ）	２５ｐｐｍ （１錠あたり水１ℓ）	２回
フルメット液剤		２～５ｐｐｍ （１０ｃｃあたり５～２ℓ）	―	１回

２０２０年１１月1日現在

令和３年　すもも（プルーン）病害虫防除暦

JAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数（薬量／水１００ﾘｯﾄﾙ）			農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量（１０ａ）	注意事項	月日	防除実績（メモ）
発芽前（３／１９頃）	カイガラムシ類	① スプレーオイル	５０倍	（２ﾘｯﾄﾙ）	発芽前まで —	３５０ﾘｯﾄﾙ	（１）マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。 （２）**発芽前までに遅れない様に散布する。** （３）枝を洗うように丁寧に散布する。	／	
	ふくろみ病	② トレノックスフロアブル	５００倍	（２００ｍｌ）	１４日前まで ３回以内				
	カイガラムシ類幼虫	③ アプロードフロアブル	１,０００倍	（１００ｍｌ）	１４日前まで ２回以内				
フェロモン剤設置時期（４月２０日頃）【　ナシヒメシンクイ、スモモヒメシンクイ対策は、ナシヒメコン ５０～１００本／１０ａ　】								／	
黒斑病重点防除 開花前	黒斑病 かいよう病	① ＩＣボルドー４１２	３０倍	（3.3ｋｇ）	—	３５０ﾘｯﾄﾙ	（１）前年度、黒斑病・かいよう病の発生があった園地では必ず散布する。 （２）**開花前まで遅れないように散布する。**	／	
4月下旬（満開3日後）		① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（１０ｍｌ）	—	３５０ﾘｯﾄﾙ		／	
	黒斑病	② マイコシールド	2,０００倍	（５０ｇ）	２１日前まで ３回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤（ＢＴ剤を除く）散布は行わない。									
5月上旬（殺虫剤解禁直後）	灰星病	① アンビルフロアブル	1,０００倍	（１００ｍｌ）	前日まで ２回以内	４００ﾘｯﾄﾙ	（１）ふくろみ病の被害果は見つけ次第摘み取り土中深く埋める。	／	
	黒斑病 かいよう病	② アグレプト水和剤	1,０００倍	（１００ｇ）	３０日前まで ２回以内				
	ケムシ類 シンクイムシ類 コスカシバ ハマキムシ類	③ フェニックスフロアブル	4,０００倍	（２５ｍｌ）	前日まで ２回以内				
5月中旬	炭疽病 ふくろみ病	① トレノックスフロアブル	５００倍	（２００ｍｌ）	１４日前まで ３回以内	４００ﾘｯﾄﾙ		／	
	黒斑病	② マイコシールド	2,０００倍	（５０ｇ）	２１日前まで ３回以内				
	アブラムシ類 カイガラムシ類 シンクイムシ類	③ モスピラン顆粒水溶剤	2,０００倍	（５０ｇ）	前日まで ３回以内				
フェロモン剤設置時期（５月２０日頃）【　コスカシバ対策はスカシバコンL５０～１００本／１０ａ、ハマキムシ対策はハマキコンーN１５０本／１０ａ　】								／	
5月下旬	炭疽病 ふくろみ病	① トレノックスフロアブル	５００倍	（２００ｍｌ）	１４日前まで ３回以内	４００ﾘｯﾄﾙ		／	
	シンクイムシ類	② スプラサイド水和剤	1,５００倍	（６６ｇ）	１４日前まで ２回以内				
6月上旬	灰星病	① オンリーワンフロアブル	2,０００倍	（５０ｍｌ）	前日まで ３回以内	４００ﾘｯﾄﾙ	早生種の散布は収穫２１日前まで終了する。	／	
	黒斑病	② マイコシールド	2,０００倍	（５０ｇ）	２１日前まで ３回以内				
	アブラムシ類 シンクイムシ類	③ スカウトフロアブル	2,０００倍	（５０ｍｌ）	前日まで ３回以内				
6月中下旬	灰星病 黒星病	① ナリアWDG	2,０００倍	（５０g）	前日まで ２回以内	４００ﾘｯﾄﾙ	（１）ナリアWDGは、西洋なし（ル・レクチェ）ぶどう（ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ）に薬害がでるので注意する。	／	
	ケムシ類 シンクイムシ類	② エクシレルＳＥ	2,５００倍	（４０ｍｌ）	前日まで ３回以内				
	ナミハダニ	③ ダニコングフロアブル	2,０００倍	（５０ｍｌ）	前日まで １回				
7月上旬	灰星病	① インダーフロアブル	5,０００倍	（２０ｍｌ）	前日まで ４回以内	４００ﾘｯﾄﾙ	（１）シンクイムシ類の発生が多い園地では、７月上旬にスカウトフロアブル2,０００倍（前日まで３回以内）単用散布する。	／	
	シンクイムシ類 アブラムシ類 カイガラムシ類	② モスピラン顆粒水溶剤	2,０００倍	（５０ｇ）	前日まで ３回以内				
7月中下旬	黒星病	① スクレアフロアブル	3,０００倍	（３３ｍｌ）	前日まで ３回以内	４００ﾘｯﾄﾙ	（１）ハダニ類の発生がみられる場合は、ダニゲッターフロアブル2,０００倍（前日まで１回）を加用散布する。 （２）アーデントフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	／	
	ハダニ類 シンクイムシ類	② アーデントフロアブル	2,０００倍	（５０ｍｌ）	前日まで ３回以内				
8月上旬	灰星病	① オンリーワンフロアブル	2,０００倍	（５０ｍｌ）	前日まで ３回以内	４００ﾘｯﾄﾙ		／	
	アブラムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類	② モスピラン顆粒水溶剤	2,０００倍	（５０ｇ）	前日まで ３回以内				
8月中旬	灰星病 すす点病	① アミスター１０フロアブル	1,０００倍	（１００ｍｌ）	前日まで ３回以内	４００ﾘｯﾄﾙ	（１）スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 晩生種のみ散布する。	／	
	シンクイムシ類 アブラムシ類	② スカウトフロアブル	2,０００倍	（５０ｍｌ）	前日まで ３回以内				
8月下旬	アブラムシ類 カメムシ類	① ダントツ水溶剤	4,０００倍	（２５ｇ）	３日前まで ３回以内	４００ﾘｯﾄﾙ	晩生種のみ散布する。	／	
9月上旬（除袋後）	灰星病	① インダーフロアブル	5,０００倍	（２０ｍｌ）	前日まで ４回以内	４００ﾘｯﾄﾙ	晩生種のみ散布する。	／	
	ケムシ類 シンクイムシ類	② エクシレルＳＥ	2,５００倍	（４０ｍｌ）	前日まで ３回以内				
黒斑病重点防除 収穫後	かいよう病 黒斑病	① アビオンーＥ（展着剤）	2,０００倍	（５０ｍｌ）	—	４００ﾘｯﾄﾙ	黒斑病の多発した園地では、ＩＣボルドー４１２　３０倍を前回散布１４日後に追加散布する。	／	
		② ＩＣボルドー４１２	３０倍	（3.3ｋｇ）	—				
	コスカシバ	③ フェニックスフロアブル	4,０００倍	（２５ｍｌ）	前日まで ２回以内				
コスカシバの発生が多い園地では、トラサイドＡ乳剤２００倍（収穫後～発芽前の幼虫食入期　２回以内）を樹幹及び主枝に十分散布する。									

２０２０年１１月1日現在

令和３年　うめ病害虫防除暦

JAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数（薬量／水１００ﾘｯﾄﾙ）			農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量（１０ａ）	注意事項	月日	防除実績（メモ）
３月中旬（発芽前）	カイガラムシ類	① スプレーオイル	５０倍	（２ﾘｯﾄﾙ）	発芽前まで ―	３５０ﾘｯﾄﾙ	（１）品種や系統によって発芽時期が異なるので適期防除に努める。 （２）マシン油等を使用するときは、低温時の使用を避け、好天の続くときに使用する。	／	
	黒星病	② トレノックスフロアブル	５００倍	（２００ｍｌ）	２１日前まで ２回以内				
	カイガラムシ類幼虫	③ アプロードフロアブル	１,０００倍	（１００ｍｌ）	７日前まで ２回以内				
４月下旬（落花直後）	黒星病 すす斑病	① オーソサイド水和剤８０	８００倍	（１２５ｇ）	２１日前まで ３回以内	３５０ﾘｯﾄﾙ	（１）ヤニ吹き果の多い樹では、この回以降３回、ヨーヒＢ５、８００倍を加用散布する。	／	
５月上旬（５／１０頃）	黒星病 すす斑病	① ナリアWDG	２,０００倍	（５０ｇ）	７日前まで ２回以内	４００ﾘｯﾄﾙ	（１）訪花昆虫保護のため、訪花昆虫の活動前（１５℃になる前）に防除を終了する。	／	
	アブラムシ類	② ウララＤＦ	２,０００倍	（５０ｇ）	７日前まで ２回以内				
フェロモン剤設置時期（５月２０日頃）【　コスカシバ対策　スカシバコンＬ　５０～１００本／１０ａ　】								／	
５月中旬（５／２０頃）	枝枯病 黒星病 すす斑病	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（１０ｍｌ）	―	４００ﾘｯﾄﾙ	（１）ベルクート水和剤は、この時期西洋なしに薬害がでるので注意する。	／	
		② ベルクート水和剤	２,０００倍	（５０ｇ）	３０日前まで ３回以内				
６月中旬（６／１５頃）	黒星病 すす斑病	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（１０ｍｌ）	―	４００ﾘｯﾄﾙ	（１）日中高温時（２５℃以上）の散布は避ける。	／	
		② スコア顆粒水和剤	３,０００倍	（３３ｇ）	前日まで ３回以内				
	アブラムシ類 シンクイムシ類 アカマダラケシキスイ	③ バリアード顆粒水和剤	４,０００倍	（２５ｇ）	前日まで ２回以内				
ナミハダニが発生した場合、ダニコングフロアブル２,０００倍（前日まで１回）を散布する。								／	
９月中旬（収穫後）	ケムシ類 コスカシバ	① フェニックスフロアブル	４,０００倍	（２５ｍｌ）	前日まで ２回以内	４００ﾘｯﾄﾙ		／	

令和３年　かき病害虫防除暦

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数（薬量／水１００ﾘｯﾄﾙ）			農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量（１０ａ）	注意事項	月日	防除実績（メモ）
休眠期（発芽前）	カイガラムシ類	① スプレーオイル	５０倍	（２ﾘｯﾄﾙ）	発芽前まで ―	３５０ﾘｯﾄﾙ	（１）マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。	／	
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤（ＢＴ剤を除く）散布は行わない。									
５月中旬	アザミウマ類 カイガラムシ類 カメムシ類 カキノヒメヨコバイ カキノヘタムシガ	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（１０ｍｌ）	―	４００ﾘｯﾄﾙ	（１）ハマキムシ類の発生の多い園地ではさらにダイアジノン水和剤３４、１,０００倍を散布する。（４５日前まで４回以内）	／	
		② モスピラン顆粒水溶剤	４,０００倍	（２５ｇ）	前日まで ３回以内				
開花直前（５月下旬頃）	落葉病 炭疽病 すす点病	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（１０ｍｌ）	―	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）スプラサイド水和剤は、さくらんぼの「紅きらり」に薬害が生じるので注意する。	／	
		② オーソサイド水和剤８０	１,０００倍	（１００ｇ）	７日前まで ５回以内				
	チャノキイロアザミウマ	③ スプラサイド水和剤	１,０００倍	（１００ｇ）	３０日前まで ３回以内				
満開期（６／１０頃）	炭疽病・うどんこ病 落葉病	① オンリーワンフロアブル	２,０００倍	（５０ｍｌ）	前日まで ３回以内	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）落葉病とアザミウマ類防除の重要な時期なので、遅れないように葉裏まで「丁寧」に散布する。	／	
	アザミウマ類 カキノヘタムシガ	② アグロスリン水和剤	１,０００倍	（１００ｇ）	前日まで ３回以内				
６月中下旬	炭疽病・落葉病 うどんこ病・黒星病	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（１０ｍｌ）	―	５００ﾘｯﾄﾙ		／	
		② ベルクート水和剤	１,５００倍	（６６ｇ）	１４日前まで ３回以内				
	アザミウマ類 カキノヒメヨコバイ	③ ダントツ水溶剤	４,０００倍	（２５ｇ）	７日前まで ３回以内				
７月中旬	落葉病・炭疽病 うどんこ病	① アイヤーエース（展着剤）	１０,０００倍	（１０ｍｌ）	―	５００ﾘｯﾄﾙ		／	
		② オキシンドー水和剤８０	１,０００倍	（１００ｇ）	１４日前まで ５回以内				
	アザミウマ類 カキノヘタムシガ	③ アグロスリン水和剤	１,０００倍	（１００ｇ）	前日まで ３回以内				
７月下旬	落葉病・炭疽病 うどんこ病	① オキシンドー水和剤８０	１,０００倍	（１００ｇ）	１４日前まで ５回以内	５００ﾘｯﾄﾙ		／	
	チャノキイロアザミウマ カメムシ類	② テルスターフロアブル	３,０００倍	（３３ｍｌ）	３日前まで ２回以内				
８月中旬	落葉病・炭疽病 黒点病・すす点病 うどんこ病	① アミスター１０フロアブル	１,０００倍	（１００ｍｌ）	７日前まで ３回以内	５００ﾘｯﾄﾙ	（１）アザミウマ類防除の特に重要な時期である。 （２）降雨の続く場合は、落葉病対策としてさらに９月上旬にナリアWDG２,０００倍（前日まで２回以内）を散布する。ただし、ナリアWDGは、西洋なし（ル・レクチェ）、ぶどう（ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ）に薬害がでるので注意する。 （３）チャノキイロアザミウマの発生が多い場合は、９月上旬にアディオン乳剤３,０００倍を散布する。（７日前まで５回以内）	／	
	チャノキイロアザミウマ	② スプラサイド水和剤	１,０００倍	（１００ｇ）	３０日前まで ３回以内				

２０２０年１１月1日現在